

メルトーチ防水の取扱い並びにメンテナンスのお願い

施工中のお願い(施工業者以外の方へ)

- メルトーチ防水の施工現場は、火気・プロパンガスや有機溶剤系副資材を使用しておりますので、立ち入らないでください。
- メルトーチ防水の施工現場周辺には、足場や資材置き場などがあります。危険ですので立ち入らないでください。
- 施工中は独特のプロパンガス燃焼時の音や風向きによって有機溶剤臭がする場合があります。ご了承ください。

露出防水層取扱いのお願い

- 露出防水層は専門技術者、メンテナンス担当者もしくは管理者に許可を得た方以外は、防水層上を歩行したり、養生せずに物を置いたりしないでください。
- 止むを得ず、露出防水層上を歩行する場合は、ゴム底など柔らかい履き物を使用してください。
- 物を落したり、引きずったりして防水層を損傷させないでください。
- 露出防水層の上に有機溶剤・薬品類や油などをこぼさないでください。防水層の急激な劣化につながります。

保護防水層取扱いのお願い

- 保護層の上に直接客土したり、草木の植栽を行わないでください。
- 保護層の目地に草などが生えた場合は、根が防水層に影響を及ぼす場合があるので早めに抜き取ってください。

メンテナンスのお願い

- 露出防水層の仕上げ塗料は、3~5年を目途に塗替えをお勧めいたします。なお、防水層の点検、補修及び仕上げ塗料の塗替えは専門の業者にご相談ください。保証上の問題がありますので、まず施工をご依頼された防水工事業者にご相談ください。工事業者又は弊社専門技術者の点検を依頼し、その意見を良くご理解された上で、同一の塗料で塗替え補修を行ってください。(原則として塗替えは有償となります。)
- 仕上げ塗料に微細なひび割れや、剥離が生じることがありますが、防水性能に支障ありません。とくに程度が激しい場合はご相談ください。
- ドレン周辺は定期的に点検し、排水が妨げられないよう、土砂、草などを取り除いてください。(水溜り発生に伴い、防水層を劣化させる場合があります。)

その他

- 仕上げ塗料の使用に際して、ロットの違う仕上げ塗料を使用した場合、色むらが発生することがあります。
- メルトーチ露出用シート(AP40M,SB40M)の表面に使用している板状砂粒(ミネラル)は天然石の為サビを発生させる場合がありますが、防水性能に支障ありません。
- 防水層に次のような現象が見られる場合がありますが、防水性能に支障ありません。
 - ・防水層に発生したふくれ
 - ・経年劣化による表面の変退色
 - ・水溜りや防水層表面に発生する微細な劣化など
 - ・シート相互間から、はみ出したコンパウンドのひび割れ、仕上げ塗料の剥れ

本カタログ記載内容についての注意事項

- ◆本カタログの記載内容は、予告無しに仕様や記載事項を変更する場合がありますので、予めご了承ください。
- ◆本カタログ記載の性能、物性等の諸データ値は、弊社実験による測定値であり、その数値、性能を保証するものではありません。
- ◆製品の性能は、環境条件や使用方法等により本カタログ記載内容と異なる場合があります。事前に使用目的に応じた施工テストを行い、製品の適合性と安全性を確認してください。

宇部興産建材株式会社

防水材営業部

〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目2番1号 シーバンスN館
TEL(03)5419-6203 FAX(03) 5419-6268

<http://www.ube-ind.co.jp/ubekenzai/>

東京支店 〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目2番1号 シーバンスN館 TEL 03-5419-6203
大阪支店 〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20(堂島アバンザ20F) TEL 06-6346-1363
名古屋支店 〒461-0005 名古屋市東区東桜1-1-10(アーバンネット名古屋ビル20F) TEL 052-961-1375
広島支店 〒730-0031 広島市中区紙屋町2-1-22(広島興銀ビル) TEL 082-244-7234
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-2-12(メットライフ天神ビル8F) TEL 092-781-2309
東北営業所 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3(鹿島広業ビル) TEL 022-262-6235
札幌営業所 〒007-0801 札幌市東区東苗穂一条1-2-44 TEL 011-784-8183

販売取扱店



トーチ工法用防水シート 建築防水工法 メルトーチ

メルトーチは宇部興産建材株式の登録商標です

工法一覧表

()内は寒冷地仕様の工法No.および使用材料です。

工 法 No.		工 程							頁
		1	2	3	4	5	6	7	
① MTS-101W	保護打設防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	SB25B	絶縁シート	保護層			17
② TS-101W		プライマー	SB25B	SB25B	絶縁シート	保護層			
③ MTS-401W	保護断熱防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	SB25B	接着剤	断熱材	絶縁シート	保護層	18
④ TS-401W		プライマー	SB25B	SB25B	接着剤	断熱材	絶縁シート	保護層	
⑤ MTA-311 (MTS-311)	露出防水 (単層仕様)	下地調整材	AP40M (SB40M)						19
⑥ MTA-321 (MTS-321)		下地調整材	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
⑦ TA-311 (TS-311)		プライマー	AP40M (SB40M)						
⑧ TA-321 (TS-321)		プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
⑨ MTA-311W (MTS-311W)	露出防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	AP40M (SB40M)					20
⑩ MTA-321W (MTS-321W)		下地調整材	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
⑪ TA-311W (TS-311W)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)					
⑫ TA-321W (TS-321W)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
⑬ MTA-312 (MTS-312)	露出点張り防水 (単層仕様)	下地調整材	AP40M (SB40M)						21
⑭ MTA-322 (MTS-322)		下地調整材	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
⑮ TA-312 (TS-312)		プライマー	AP40M (SB40M)						
⑯ TA-322 (TS-322)		プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
⑰ MTA-312W (MTS-312W)	露出点張り防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	AP40M (SB40M)					22
⑱ MTA-322W (MTS-322W)		下地調整材	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
⑲ TA-312W (TS-312W)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)					
⑳ TA-322W (TS-322W)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉑ MTA-313W (MTS-313W)	粘着シート併用 露出密着防水 (複層仕様)	下地調整材	SS15R	AP40M (SB40M)					23
㉒ MTA-323W (MTS-323W)		下地調整材	SS15R	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉓ TA-313W (TS-313W)		プライマー	SS15R	AP40M (SB40M)					
㉔ TA-323W (TS-323W)		プライマー	SS15R	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉕ MTA-316W (MTS-316W)	部分粘着シート併用 露出絶縁防水 (複層仕様)	下地調整材	SM15C	AP40M (SB40M)					24
㉖ MTA-326W (MTS-326W)		下地調整材	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉗ TA-316W (TS-316W)		プライマー	SM15C	AP40M (SB40M)					
㉘ TA-326W (TS-326W)		プライマー	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉙ MTA-413W (MTS-413W)	粘着シート併用 露出断熱密着防水 (複層仕様)	下地調整材	ACG材	GFボード または同等品	SS15R	AP40M (SB40M)			25
㉚ MTA-423W (MTS-423W)		下地調整材	ACG材	GFボード または同等品	SS15R	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料		
㉛ TA-413W (TS-413W)		RA水性ボンド	GFボード または同等品	SS15R	AP40M (SB40M)				
㉜ TA-423W (TS-423W)		RA水性ボンド	GFボード または同等品	SS15R	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料			
㉝ MTA-416W (MTS-416W)	部分粘着シート併用 露出断熱絶縁防水 (複層仕様)	下地調整材	ACG材	GFボード または同等品	SM15C	AP40M (SB40M)			26
㉞ MTA-426W (MTS-426W)		下地調整材	ACG材	GFボード または同等品	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料		
㉟ TA-416W (TS-416W)		RA水性ボンド	GFボード または同等品	SM15C	AP40M (SB40M)				
㊀ TA-426W (TS-426W)		UBE水性 プライマー	RA水性ボンド	GFボード または同等品	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料		

工 法 No.		工 程							頁
		1	2	3	4	5	6	7	
⑳ TA-311M (TS-311M)	機械的固定工法 (単層仕様)	プライマー	AP40M (SB40M)						27
㉑ TA-321M (TS-321M)		プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
㉒ TA-311MW (TS-311MW)	機械的固定工法 (複層仕様)	プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)					28
㉓ TA-321MW (TS-321MW)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉔ MTS-502W	保護打設 駐車場防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	SB25B	アスコン				29
㉕ TS-502W		プライマー	SB25B	SB25B	アスコン				

立上り工法

㉖ TA-321 (TS-321)	露出単層仕様	プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					30
㉗ TA-321W (TS-321W)	露出複層仕様	プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉘ TA-323W (TS-323W)	粘着シート併用 露出複層仕様	プライマー	SS15R	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				
㉙ TS-101W	非露出(押え) 複層仕様	プライマー	SB25B	SB25B	保護層 (別途工事)				

官公庁仕様

㉚ MTA-321W (MTS-321W)	露出防水 (複層仕様)	下地調整材	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				AS-T1	31
㉛ TA-321W (TS-321W)		プライマー	SB25B	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
㉜ MTA-321 (MTS-321)	露出防水 (単層仕様)	下地調整材	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					AS-T2	32
㉝ TA-321 (TS-321)		プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料						
㉞ MTA-326W (MTS-326W)	部分粘着シート併用 露出絶縁防水 (複層仕様)	下地調整材	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料				AS-T3	33
㉟ TA-326W (TS-326W)		プライマー	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					
㊀ MTA-322 (MTS-322)	露出絶縁防水 点張り + 単層仕様	下地調整材	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料					AS-T4	34
㊁ TA-322 (TS-322)		プライマー	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料						
㊂ MTA-426W (MTS-426W)	部分粘着シート併用 露出断熱絶縁防水 (複層仕様)	下地調整材	ACG材	断熱層	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料		ASI-T1	35
㊃ TA-426W (TS-426W)		プライマー	RA水性ボンド	断熱層	SM15C	AP40M (SB40M)	仕上げ塗料			

• 工法番号の見方 例 **TA-311MW**

M	TA	3	1	1	M	W
M: 下地調整材処理 無し: プライマー処理	TA: APPタイプ TS: SBSタイプ	1: 保護打設仕上げ 3: 露出仕上げ 4: 露出断熱仕上げ	0: 保護打設仕上げ 1: ミネラル仕上げ 2: 仕上げ塗料仕上げ	1: 密着 2: 点張り 3: 粘着シート併用 6: 部分粘着シート併用	M: 機械固定工法	W: 複層仕様 無し: 単層仕様

※仕様によりシート、断熱材、下地調整材など使用する材料が異なりますので詳しくは各工法ページをご参照ください。

今、最も新しい都市型防水!

弊社は、長年にわたり蓄積してきた技術力、ノウハウを背景にトーチ工法用の改質アスファルトルーフィングシート「メルトーチ」を製造、販売致しております。環境対応型防水工法としてのメルトーチ防水工法は永く皆様のお役に立っております。

UBEの総合技術が、
わずかの雨漏りも
シャットアウトします。

1 環境に優しい材料

- 溶融アスファルトにみられる臭気や煙の発生がほとんどありません。
- 居住者、近隣に対して安全でより良い環境下で施工ができます。

2 経済効果

- 既存アスファルト防水層の上からメルトーチを施工することが可能です。
- 既存防水層撤去による廃材の発生や、施工後の残材の発生が少なく経費を削減することができます。

3 耐久性

- メルトーチは合成繊維不織布と改質アスファルトを組み合わせたトーチ工法用の防水シートで、耐熱性が高く、耐水性および寸法安定性に優れていますので強靱で素晴らしい耐久性を発揮します。

4 ジョイントの水密性

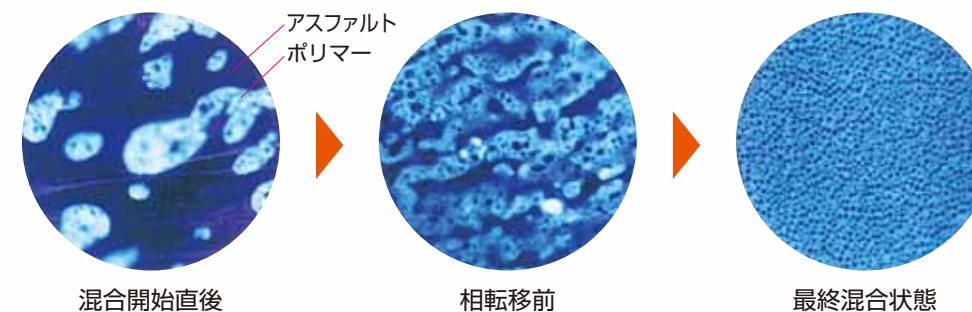
- メルトーチはトーチバーナーによる加熱融着工法のため、シート相互のジョイント部分が一体化し、水密性は完全なものになります。

5 下地追従性

- 合成繊維不織布と改質アスファルトとの相乗効果により、下地の複雑な動きやクラックに優れた追従性があります。

メルトーチで採用の改質アスファルトコンパウンド

ポリマーの分散度 (マトリックス写真)



製品構成・規格

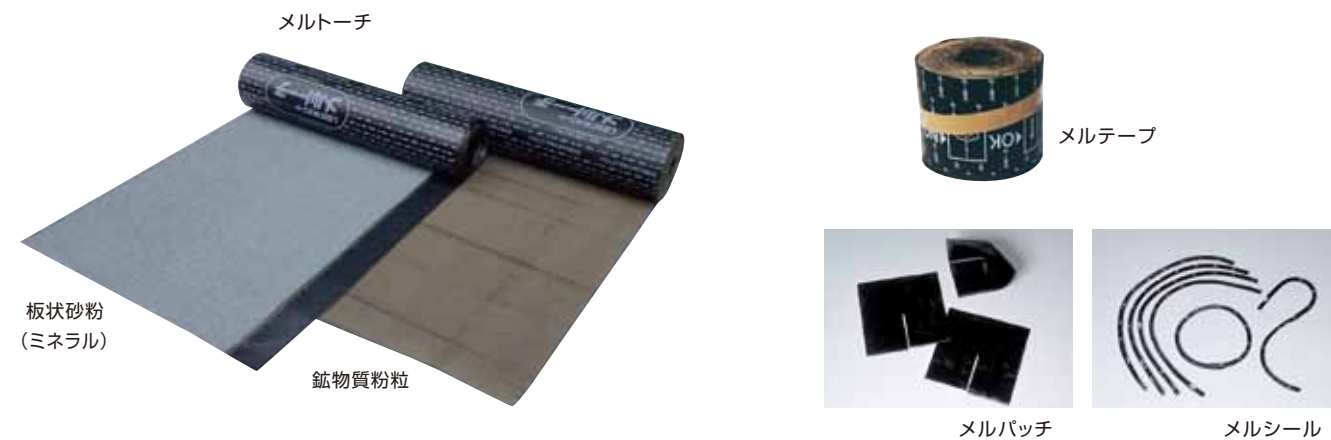
新製品・規格

メルトーチの構成・規格

グレード	構成	材料規格				備考	
		長さ(m)	幅(m)	厚さ(mm)	重量(kg)		
メルトーチ	非露出復層用	AP25B※	15	1	2.5	43	【一般地用】 APP改質 JIS A 6013 適合品 【寒冷地用】 SBS改質 JIS A 6013 適合品
		SB25B	15	1	2.5	45	
	露出単層用	AP40B※	8	1	4.0	37	
		SB40B※	8	1	4.0	40	
	露出単層用	AP40M	8	1	4.0	38	
		AP45M※	8	1	4.5	43	
		SB40M	8	1	4.0	39	
		SB45M	8	1	4.5	42	
メルテープ	増張り用	T2520S	15	0.2	2.5	8	【寒冷地用】 SBS改質 JIS A 6013 適合品
		T2520A※	15	0.2	2.5	8	【一般地用】 APP改質 JIS A 6013 適合品

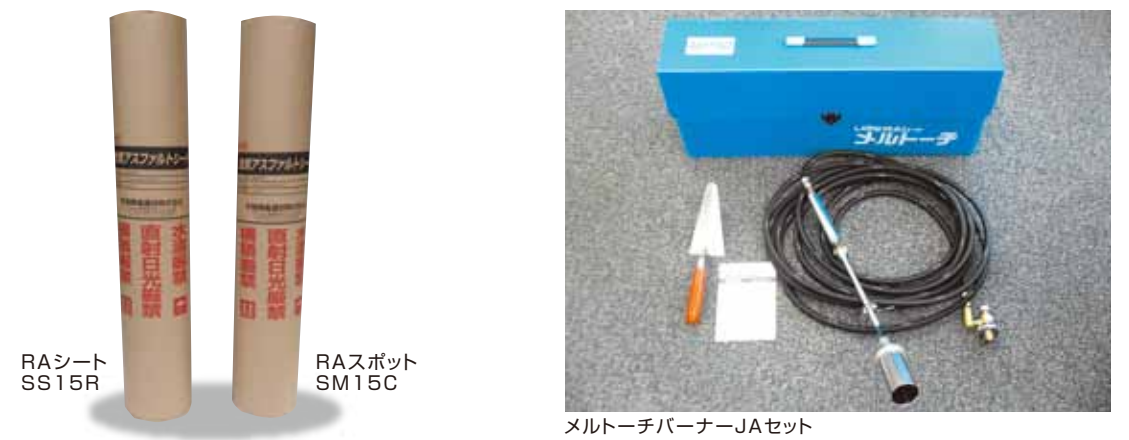
※AP25B、AP40B、SB40B、AP45M、T2520Aは受注生産品となります。

詳しくは弊社販売員までお問合せください。



RAシートとテープの構成・規格

グレード	構成	材料規格				備考
		長さ(m)	幅(m)	厚さ(mm)	重量(kg)	
RAシート	SS15R	15	1	1.5	25	非露出復層用シート JIS A 6013 適合品
RAスポット	SM15C	15	1	1.5	27	部分粘着型 通気シート用 (接着面積41.6%) 非露出復層用シート JIS A 6013 適合品
RAテープ 両面タイプ	WT120	15	0.2	0.9	8kg (箱)	下層がRAシートの場合 の出入隅角、ドレン・ パイプまわりなどの 複雑部位用テープ 2巻/箱
RAテープ 片面タイプ	MTS205	20	0.05	0.5	16kg (箱)	断熱材の目地部 捨張り用テープ 24巻/箱
	ST020	15	0.2	2.0	27kg (箱)	増張り用テープ 4巻/箱
	SU1520	16	0.2	1.5	12kg (箱)	増張り用テープ 2巻/箱



工法概要
製品構成・規格
副資材一覧表
技術資料
標準施工手順
改修時の処理
工法概要
官公庁仕様
架台設置の復元工法
安全管理指針
立ち上りの納まり図例
注意事項

下地処理材 **メルトーチプライマー**

下地処理材で、下地表面の除去できないゴミやホコリを下地に固着させ、シートの接着力を向上させます。臭気の少ない溶剤タイプです。



〈仕 様〉15kg石油缶入
〈主成分〉特殊アスファルト系溶剤タイプ

第四類 第二石油類

吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

下地処理材 **UBE水性プライマー**

ゴムアスファルトエマルジョンタイプの下地処理材で、施工性に優れます。有機溶剤を含みませんので室内及び地下防水など換気の悪い場所などでの使用に適します。



〈仕 様〉17kg石油缶入
〈主成分〉ゴムアスファルトエマルジョン

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

断熱材張り付け用(点張り) **アクアシャッターACG材**

ポリマーセメント系塗膜防水材として販売しておりますが、断熱材張り付け用接着材料としても優れた接着性、施工性を有します。

ACG原液
〈仕 様〉18kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン



ACG混和材
〈仕 様〉22kg紙袋入
〈主成分〉無機水硬性粉体

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

断熱材張り付け用 **RA水性ボンド**

アクリル系水溶性タイプの断熱材接着用ボンドで、乾燥後も粘着感が残る、施工性に優れます。



〈仕 様〉17kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

下地処理材 **RAプライマー**

RAシート用のプライマーで、RAシートの接着力を向上させます。また主成分はRAシートの粘着層と同じものを使用しています。



〈仕 様〉15kg石油缶入り
〈主成分〉特殊ゴム化アスファルト系溶剤タイプ

第四類 第一石油類

吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

下地調整材 **メルベース**

熱アスファルト防水層の改修に最適です。メルベース原液、及びメルベース混和材がセットになっているため調合が簡単で正確です。
※メルベース原液 17kg/缶に対してメルベース混和材36kg(18kg/袋×2)が必要です。

メルベース原液

〈仕 様〉17kg石油缶入
〈主成分〉ゴムアスファルトエマルジョン



メルベース混和材

〈仕 様〉18kg紙袋入
〈主成分〉無機水硬性粉体
〈カラー〉ナチュラル

※混合前にメルベース原液のみ十分に攪拌してください。

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

メルトーチカセットバーナー

小面積の補修に最適
アスファルト防水の部分補修など、プロパンガスボンベを運ばずに施工が可能
本体とカセットボンベ(パワーガス)があれば、施工が可能(準備、片付けが簡単)

〈仕 様〉

- ・外形寸法:145(高)×75(幅)×680(全長)mm
- ・重量:0.8kg(本体のみ)
- ・火口径:φ50mm
- ・燃焼時間:約9分(気温25℃、最高火力の場合)
- ・発熱量:25.6kW(専用のパワーガスRZ-760使用時)

〈主成分〉

- ・液化プロパン+液化ブタン



メルトーチカセットバーナーには専用カセットボンベが1本付いています。



パワーガスCB ・12本入り

下地活性調整材 **RAペーストⅡ**

有機溶剤系の下地活性調整材で、優れた調整効果があります。仮防水性もありますが、硬化後の皮膜に亀裂が生じている場合は除外されます。



〈仕 様〉20kg石油缶入り
〈主成分〉特殊アスファルト系溶剤タイプ

第四類 第二石油類 溶剤

吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

仮防水用下地調整材 **カリボウベース**

セメントを主成分とする仮防水用下地調整材です。

カリボウ原液

〈仕 様〉18kg/缶
〈主成分〉特殊変性エマルジョン



カリボウ混和材

〈仕 様〉7kg×2袋/箱
〈主成分〉特殊セメント、骨材

※専用カタログを参照ください。

ユービーカチオン

●ユービーカチオンK(コテ用)

〈仕 様〉ペール缶
〈主成分〉プレミックス粉体 15.5kg
特殊樹脂エマルジョン 4.5kg
標準塗布量は1mm厚ですが、3mm厚まで可能です。

●ユービーカチオンR(ローラー用)

〈仕 様〉ペール缶
〈主成分〉プレミックス粉体 11kg
特殊樹脂エマルジョン 6kg
標準塗布量は0.3mm厚ですが、1mm厚まで可能です。
5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。



速硬化型下地調整材 **勾配レベラー**

セメントを主成分とする下地調整材です。3mmから50mmまでの厚付け施工が可能です。勾配調整を行いたい下地に使用できます。



〈仕 様〉25kg紙袋入
〈主成分〉樹脂パウダー入水硬性粉体

※専用カタログを参照ください。

メルトーチバーナーJA

- ・メルトーチバーナーJAセット(50mmセット、70mmセット)
- セット内容:バーナー本体(バーナー部+ホース10m/バルブ付)、専用コテ、専用ケース、取扱説明書



・バーナー部(50mm、70mm)



・ホース10m/バルブ付

注.メルトーチバーナーJA専用の為旧メルトーチバーナー、その他バーナーには取付けできません。

役物回り補強用 **メルパッチ**

シート状の改質アスファルトで役物回りの補強に使用します。



〈仕様〉
寸法：20cm×20cm
厚さ：3.0mm
50枚/箱
〈主成分〉
改質アスファルト

パイプ回り補強用 **メルシール**

ヒモ状の改質アスファルトでパイプ回りや基礎台アンカーボルト等の特に水密性を確保したい部分のシール処理に使用します。



〈仕様〉
直径：7mm
長さ：50cm
100本/箱
〈主成分〉
改質アスファルト

露出防水着色仕上げ用 **RAコート・RAコートII**

メルトーチの表層着色仕上げに使用するアクリル系水溶性タイプの塗料で、耐候性に優れます。



〈仕様〉15kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン
〈カラー〉シルバー、グレー、グリーン

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。

フクレ防止工法用 **UBE脱気筒**

フクレ防止工法に使用、下地の水分を外気に拡散します。



〈材質〉
ステンレス製
〈仕様〉
高さ：18.5cm
外径：φ25cm
筒径：φ58mm

RAシール

RAシートジョイント部、役物廻り、端末部に使用するシーリング材で、ゴムアスファルト系ですのでRAシートとの接着性も優れ、RAシートの水密性がより向上します。



〈仕様〉330ccカートリッジ
ダンボール箱(24本入り)

第二類引火性固体
吸入すると中毒をおこすおそれがありますので換気および火気には、充分注意してください。

露出防水着色仕上げ用 **RA高反射コート**

メルトーチの表層着色仕上げに使用するアクリル系水溶性タイプの塗料で、優れた日射反射率を持ち、防水層の温度上昇を大幅に抑制します。



〈仕様〉15kg石油缶入
〈主成分〉アクリルエマルジョン
〈カラー〉ライトグレー

5℃以下では使用しないでください。
保管条件は、0℃以上40℃以下としてください。
※グリーン購入法適用商品。

鉛ドレン

複雑な下地にフィットしやすい鉛製の改修用ドレンです。



〈仕様〉
厚さ：1.5mm
外形：φ45mm、φ65mm、φ95mm(3種類)
つば：300mm×300mm
高さ：150mm

機械的固定金具 **ディスク、アンカー**

メルトーチ機械固定工法用の固定金具で、下地コンクリートとの固定力を十分確保します。



〈ディスク〉
・ディスク④(5mm用)
・ディスク⑥(6mm用)
規格：外径45mm×厚み1.2mm、鉄製
荷姿：100枚/箱
〈アンカー〉
・Y530 規格：直径5mm×長さ30mm、鉄製
・Y650 規格：直径6mm×長さ50mm、鉄製
・AY550 規格：直径5mm×長さ50mm、アルミ製
※必要な固定力に応じて使い分けます。

RA高反射コート

- 「RA高反射コート」は太陽からの日差しを反射させ防水層表面の温度上昇を抑えます。
- 建物内の温度上昇のみならず、アスファルト防水層の熱劣化についても抑制します。色調についてもライトグレーとする事で従来の仕上げ塗料と比較して施工後のギラツキ感が少なくなっています。

■ RA高反射コート塗膜の日射反射率

品名	日射反射率 %		
	全波長域 300~2500nm	近紫外及び 可視光域 300~780nm	近赤外域 780~2500nm
RA高反射コート	67.6	57.5	80.9

目地仕上げ処理用 **ミネラル**

Mタイプシート施工の仕上げ処理用に使用します。トーチバーナーの炎により美観を損ねた箇所やコンパウンドがはみ出した端部にはミネラル(共砂)を散布して仕上げます。



〈仕様〉5kg袋入

絶縁シート

保護打設工法の場合、メルトーチと保護層の絶縁に使用するポリプロピレンを原料としたシートで、伸び・強度・耐久性とも優れます。

〈仕様〉
目付量 82g/㎡
幅 1150mm×長さ 100m
クラフト紙包装

断熱材

●断熱材(硬質ポリウレタンフォーム) GFボード (アキレス社製) (高密度品)

サイズ 605mm×910mm
厚さ 25mm、30mm、35mm、40mm(受注生産)、50mm、60mm(受注生産)

●連絡問い合わせ先

アキレス株式会社 断熱資材販売部

ホームページ <https://www.achilles.jp/>

本社 東京都新宿区北新宿2-21-1 TEL: 03-5338-9200
関西支社 大阪府北区中之島2-2-7 TEL: 06-4707-2111

1 下地の点検と処理 (新築時)

防水施工をする場合、下地ごしらえの良否が防水層の施工のしやすさ、施工後の耐久性に大きく影響しますので、あらかじめ以下の点検を十分に行ってください。

- 1 下地表面は凸凹ができないように、金ゴテで平らに仕上げてください。
- 2 入隅は通り良く直角とし、出隅は通り良く面取りをしてください。
- 3 ルーブドレンのつぼは、水密性の確保の為、防水層の張掛け幅が 100mm 以上確保できる形状にしてください。
- 4 パラペット等の立上がり面にジャンカ、パネルの目違い等がある場合はモルタルで仕上げるかサンダー又はグラインダー等で平滑にしてください。
- 5 テープやメルトーチの下地への接着を妨げるレイタンス、ホコリ、油しみ、突起物等は完全に除去してください。下地表面のレイタンスはケレン掛けで完全に取り除きます。レイタンスの上からプライマーを塗布しても、乾燥すれば簡単に剥がれますので注意してください。
- 6 下地は十分に乾燥させてください。
養生期間：モルタルの場合 打設後 10 日以上
コンクリートの場合 打設後 1ヵ月以上
高周波水分測定器は、測定下地が平滑でない測定値にバラツキが多く信頼性に欠けますので十分注意してください。

下地水分の簡易測定法、夕刻に約1㎡の下地にポリエチレンフィルムを敷き、周辺を粘着テープ等で密封し、翌朝フィルムの裏面に結露がなければ、下地の乾燥は十分です。
- 7 水勾配は露出仕様では 1 / 50 以上となっていますが、部分的に水勾配が悪く水溜まりの発生しそうな場所は、樹脂モルタルまたは勾配レベラーを用いてレベル調整を行います。

2 プライマーの塗布

プライマーは溶剤系のメルトーチプライマーとアスファルトエマルジョン系のUBE水性プライマーの2種類があります。居住者および近隣に対しての環境等を配慮すると UBE 水性プライマーが望ましいのですが、下地に旧防水層のプライマーや皮膜が残っていたり、浸透性の悪く弾きやすい下地には、UBE 水性プライマーは相応しくありません。

プライマーの塗布は、ローラー刷毛等で均一に標準塗布量を塗布します。

- (a) メルトーチプライマーの塗布量は、0.2kg / ㎡オープンタイムは通常4~5時間です。
- (b) UBE 水性プライマーの塗布量は、0.2kg / ㎡オープンタイムは通常 60~90 分です。
- (c) ALC パネル下地の場合、下地へ浸透しやすいので塗布量は 0.5kg / ㎡程度になります。(2回塗り)

3 下地調整材の塗布

砂付きアスファルト防水を改修する場合、下地調整材で処理した後、メルトーチを張り付けます。下記の下地調整材を塗布する場合は、プライマーは不要です。



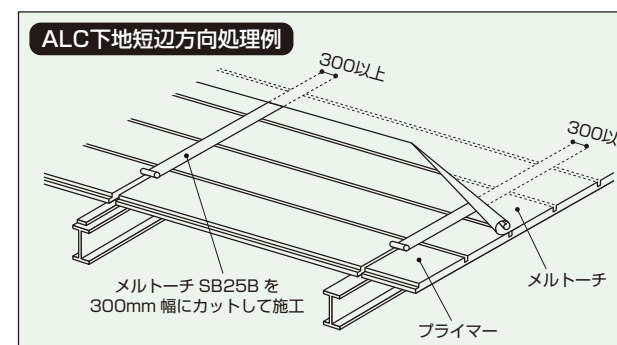
下地調整材の塗布量、硬化時間は、下記の表を参考にしてください。

商品名	標準塗布量	硬化時間(20℃)	防水施工可能時間
RAペーストII		4時間	
カリボウベース	1.0kg/㎡~1.5kg/㎡	7時間	塗布後24時間以降
メルベース		6時間	

※下地の状況により塗布量が変わる場合があります。

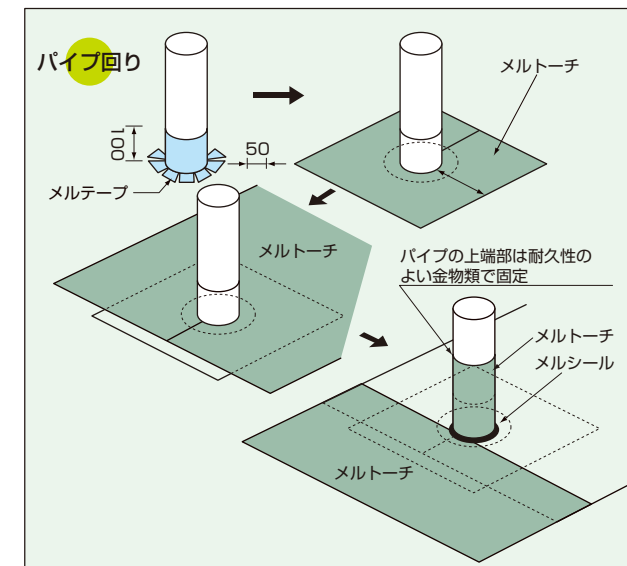
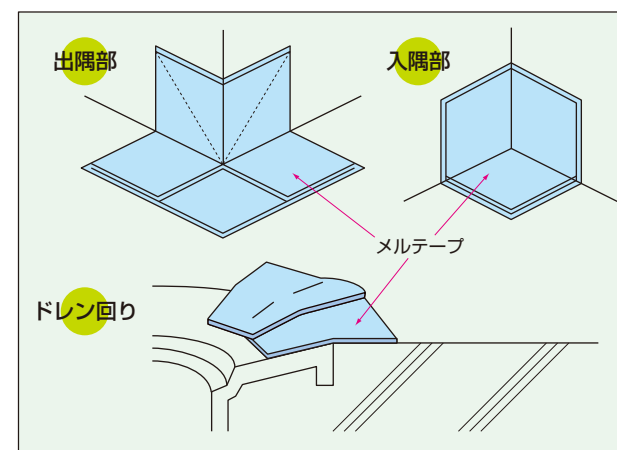
4 絶縁・増張り

- 1 ALCパネル、PC部材、異種下地間の目地部分にはメルトーチ SB25B を 300mm幅にカットしたもので下地との絶縁・補強を行います。(下図参照)
- 2 コンクリート打ち継ぎ部分にはメルテープを密着張りして補強します。
- 3 ロッキング工法のように ALC のパラペット立上り部の入隅に大きなムーブメントを生ずる可能性がある場合は、ここには成型キャント材などの成形材を用います。



5 特殊部位の処置

出隅、入隅、ドレン回りなどの役物回りは、メルテープまたは RA テープで増し張り処理をします。下地とメルテープの間に炎が入るようにして張付け、端部と段差は平滑に仕上げます。

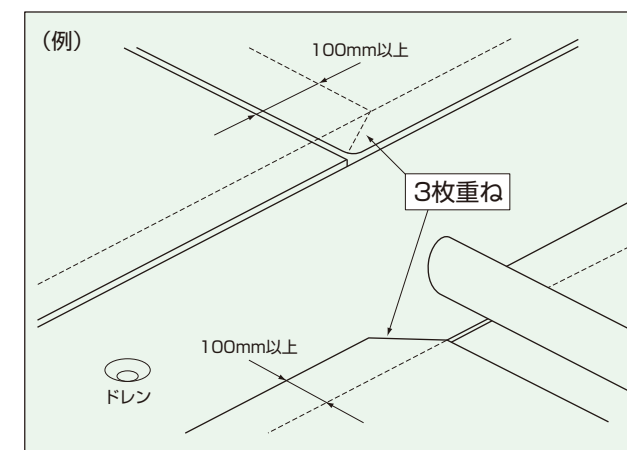


6 メルトーチの仮敷き

メルトーチはドレンの位置を確かめ、水勾配と逆張りにならないように割付けるのを原則としますが、部分的に逆張りとなるのは問題ありません。

最初の一本目はロール状となっているメルトーチを広げ、入隅線に対して平行もしくは直角になるように位置を決めます。

二本目からは接合部の重ね幅を、100mm 以上になるように仮敷きします。3枚重ねとなる部分は2枚目のメルトーチを①斜めに切り落とす②平滑になる様に加熱溶融する、のどちらかの処理をします。



7 メルトーチの施工

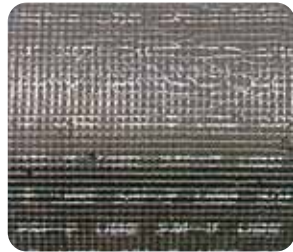
メルトーチ裏面のポリエチレンフィルム全面に「UBE メルトーチ」の文字が印刷されています。

これらの表示・形状は改質アスファルトの変化を目で確認するためのものです。

全面に印刷されている「UBE メルトーチ」の文字が崩れて読取りができなくなるまで加熱溶融しなければシートの加熱は十分ではありません。



良い例



悪い例



平場

- 仮敷きしたメルトーチを、動かないように半分程巻き戻しをします。
- 巻き戻したメルトーチの裏面を、トーチバーナーで下地と同時にあぶりながら融着していきます。
- 残り半分も巻き戻してから融着していきます。
- ジョイント部は、コンパウンドが均一にはみ出すように施工します。
※端部よりコンパウンドのはみ出しがない場合は、ジョイント部に金ゴテでトーチバーナーの炎が入り込むようにして、再融着させます。
- 平場から立上り部へ張り上げる場合、入隅コーナーに浮きやシワが生じないように十分に押え込みます。

- ミネラルタイプのシート (AP40M・SB40M など) 施工時に、トーチバーナーの炎によりシート表面が黒く変色した部分や、コンパウンドがはみ出した端部にミネラル (共砂) を散布して仕上げる事で、美観性の向上が図れます。(特に、仕上げ塗料なしの工法の場合に有効です。)
- ジョイント部の下側となるメルトーチの表面にミネラルが付着している場合は、その表面をあぶり金ゴテでミネラルを除去するか、沈めてコンパウンドを表面に露出させます。

※ ミネラル仕上げ (AP40M, SB40M)



立上り部

- 立上り部のメルトーチの張付けは、巻上げ張りを基本とし、浮きやシワができやすいのでエアアの巻込みや凹凸ができないように丁寧に施工します。
- 立上り部から平場へ張り掛ける場合、入隅コーナーに浮きやシワが生じないように十分に押え込みます。
- メルトーチの端部は、所定の位置に均一にそろえて耳浮きなどのないように金ゴテを焼いて押え平滑にします。
- メルトーチの末端部は、ステンレス製またはアルミニウム製などの押え金物を用いて留め付け、RAシールを充填します。

絶縁工法 (UBE 脱気筒)

- 絶縁工法の場合、下地水分の気化・膨張によるメルトーチのフクレは、部分粘着型通気シートの RAスポット複層工法または点張り工法だけでは防止ができないことがありますので、水分を外気へ拡散させる脱気筒を併用する手段が有効です。
- 設置数量は、通常 25～100㎡ に1個程度です。

点張り工法 (TA-322、TA-312、他)

下地の乾燥が悪く、防水施工後にフクレ発生が予想される場合には、RA スポット (部分粘着シート) を用いる通気工法と、点張り工法があります。

点張り工法はメルトーチの裏面フィルムに印刷されている部分接着箇所まで下地接着させます。フクレ防止工法であるため、脱気筒の設置が必要となります。

- メルトーチの裏面フィルムに印刷されている部分接着箇所が下地との界面に現れた時にトーチバーナーで部分接着箇所と下地を加熱溶融させて張り付けます。この場合にはジョイント部分は溶融させないで残しておきます。部分接着箇所からはみ出してジョイント部分まで加熱溶融させてしまうと、次のジョイント部分の繋ぎ込みでコテ先が挿入できず施工が困難になるのでジョイント部を溶融させないように注意してください。
- 次に加熱溶融していないジョイント部 (サイドラップ) にコテを挿入して持ち上げ、この中にトーチバーナーの炎を入れて加熱溶融し、挿入しているコテを外して直ちにコテ又は足で接合部 (サイドラップ) を押さえながら接着させます。ジョイント部分から溶融した改質アスファルトがはみ出す位に良く加熱することが重要です。



8 仕上げ塗料の塗布

- 露出防水工法の場合、メルトーチの上から防水仕上げ塗料の RAコート・RAコートII 又は RA高反射コートを塗布します。
- RAコート・RAコートII 又は RA高反射コートはエマルジョン系塗料なので塗布前によく攪拌し、5℃以下の施工を避けます。また施工後に降雨があった場合、耐久性低下の原因となりますので、天候に注意します。

- 塗布方法は、ローラー刷毛等で標準塗布量を2回に分けて塗布します。(クラック、色むら等の発生原因となりますので、必ず2回に分けます)

- 各仕上げ塗料の標準塗布量は下表の通りです。

商品名	標準塗布量
RAコート・RAコートII	0.5kg/㎡
RA高反射コート	0.5kg/㎡

- 仕上げ塗料は2～3年で塗り替えられることをお奨めいたします。



- 降雨により、花粉や土砂などが堆積している場合、マッドカーリング現象 (花咲現象) が発生する事があります。日常のメンテナンスにおいては、花粉や土砂が堆積しない様に管理が必要です。
- マッドカーリング現象により、防水層の表面に微細な亀裂等の劣化が見られる場合がありますが、防水性能に支障ありません。
- 施工完了後、急激な降雨によりドレン部に泡が発生する事がありますが、安全性上の問題はなく製品の異常によるものではありません。

改修時の処理

改修時の処理

1 既存保護層を残す場合

- コンクリート保護層表面が土砂・こけ・草木あるいは経年劣化した場合は、高圧洗浄等で清掃し、骨材が見えたり凹凸がある場合は、ユービーカチオンK 又は樹脂モルタル等で下地調整を行います。
- 水はけの悪い勾配不良がある場合は、勾配レベラー又は樹脂モルタル等で補修します。
- 伸縮目地付近によく見られる落部・浮き・剥離部は、モルタル又は樹脂モルタル等で充填あるいは部分的に撤去して補修します。
 - a. 既存目地材の飛び出し部分・異物等を除去し、目地材の欠損部はバックアップ材を入れシール材などで充填します。
 - b. 目地部分を通気溝として利用する場合は、目地材を可能な限り除去し、メルテープで処理を行い、脱気筒を取り付けます。



2 既存防水層を残す場合

- 既存防水層表面を十分に清掃します。
- 既存アスファルトのふくれ、浮きはいったん切開して、トーチバーナーでよくあぶり、下地の水分を乾燥後張り戻して融着させます。
- 防水層のふくれ、浮きおよび劣化の激しい箇所や張り直しが困難な箇所は、カッターで除去して樹脂モルタル等を塗布し平滑に仕上げます。
- 既存防水層が合成高分子系ルーフィング防水(塩化ビニル樹脂系シート)の場合は、原則として全面撤去するか、または機械固定工法をお勧めします。



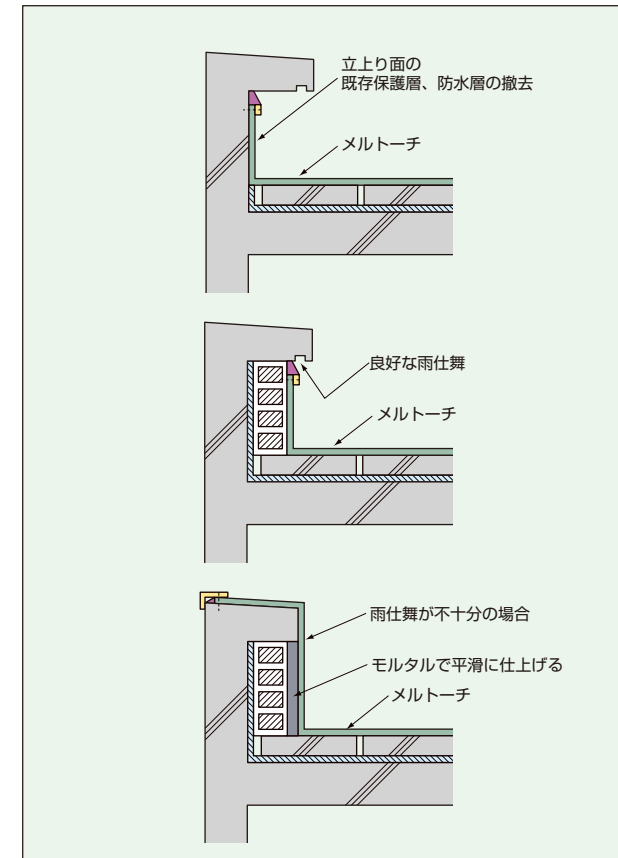
3 既存の保護層および防水層を撤去する場合

- 下地スラブコンクリートに付着している防水層残存物のケレン・清掃を行います。
- 下地スラブコンクリートの亀裂、欠損部はユービーカチオンK 又は樹脂モルタル等を塗布し平滑にします。

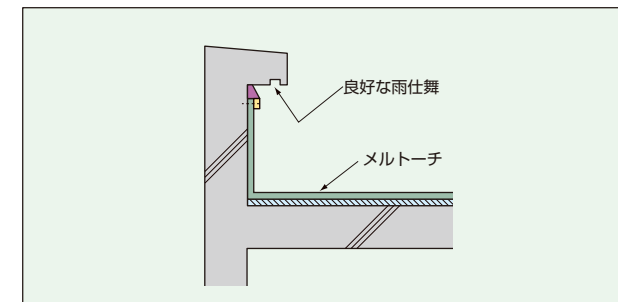


4 立上り面の処置

- 既存の仕様が保護防水の場合、立上り面の保護層を残すときには、改修防水層の末端部が良好な雨仕舞となるような処置をします。



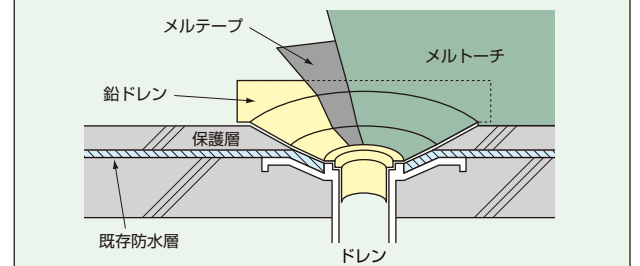
- 既存の仕様が露出防水の場合、立上り面の防水層は原則として撤去しますが、残すときには、改修防水層の末端部が良好な雨仕舞となるような処置をします。



5 ドレン回りの処置

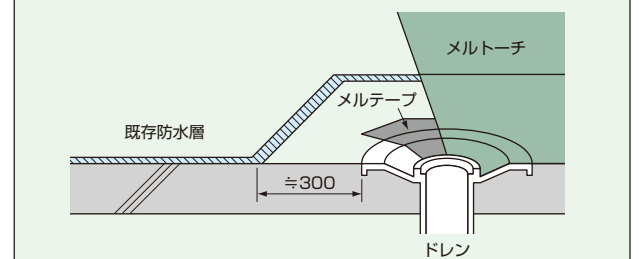
保護防水のドレン回り

- 既存保護層に水が溜まっていると予測される場合は、二重ドレン方式を採用することもあります。鉛ドレンを下地の形状に沿って合わせます。

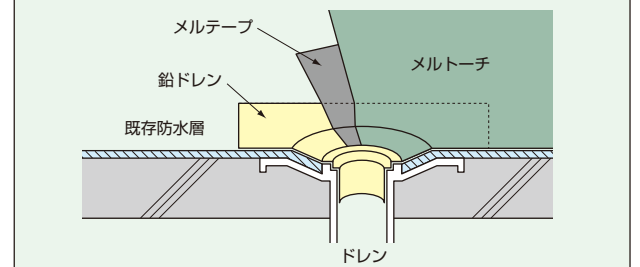


露出防水のドレン回り

- 防水層をドレン端部から 300mm 程度を四角形に撤去します。



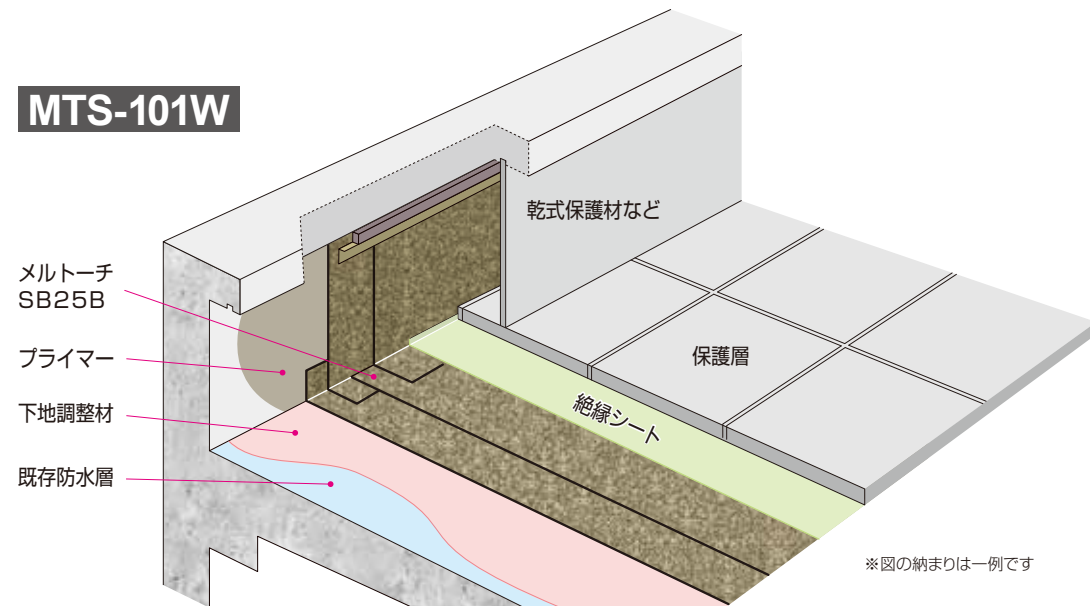
- 既存ドレンの老化状態により、撤去または二重ドレン方式を採用することもあります。鉛ドレンを下地の形状に沿って合わせます。



※ 下層シートにRAシート SS15Rを使用する場合は、RAテープ SU1520 又は WT120 で増張りします。

保護打設防水(複層仕様)

MTS-101W



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTS-101W

適用 ・歩行用屋上(アスファルト防水下地)

(単位: kg/㎡)		
1	下地調整材	RAベーストII又はカリボウベース 1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B
3	防水層(二層目)	メルトーチ SB25B
4	絶縁層	UBE 絶縁シート
5	保護層	モルタル又はコンクリート (別途工事)

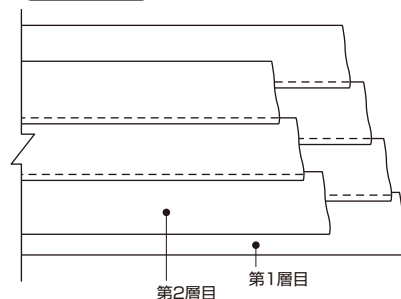
※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

(注) 1. 立上りは工程4の絶縁層を省略します。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

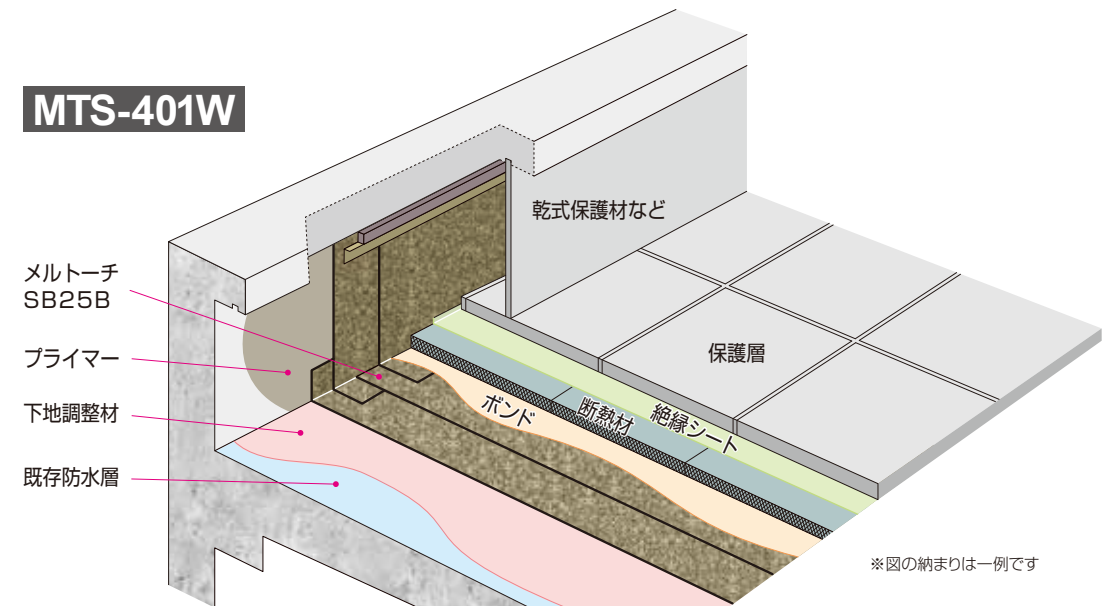
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。

平場の納まり図



保護断熱防水(複層仕様)

MTS-401W



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTS-401W

適用 ・歩行用屋上(アスファルト防水下地)

(単位: kg/㎡)		
1	下地調整材	RAベーストII又はカリボウベース 1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B
3	防水層(二層目)	メルトーチ SB25B
4	接着剤	RA水性ボンド 0.3
5	断熱材	ポリスチレンフォーム JIS A9521 3種 bA(スキン層あり)
6	絶縁層	UBE 絶縁シート
7	保護層	モルタル又はコンクリート (別途工事)

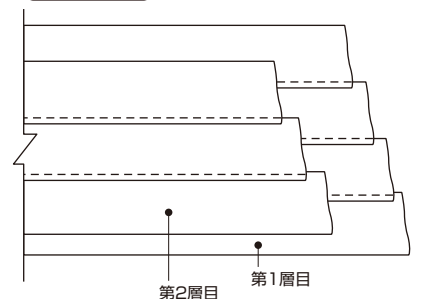
※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

(注) 1. 立上りは工程4~6までを省略します。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

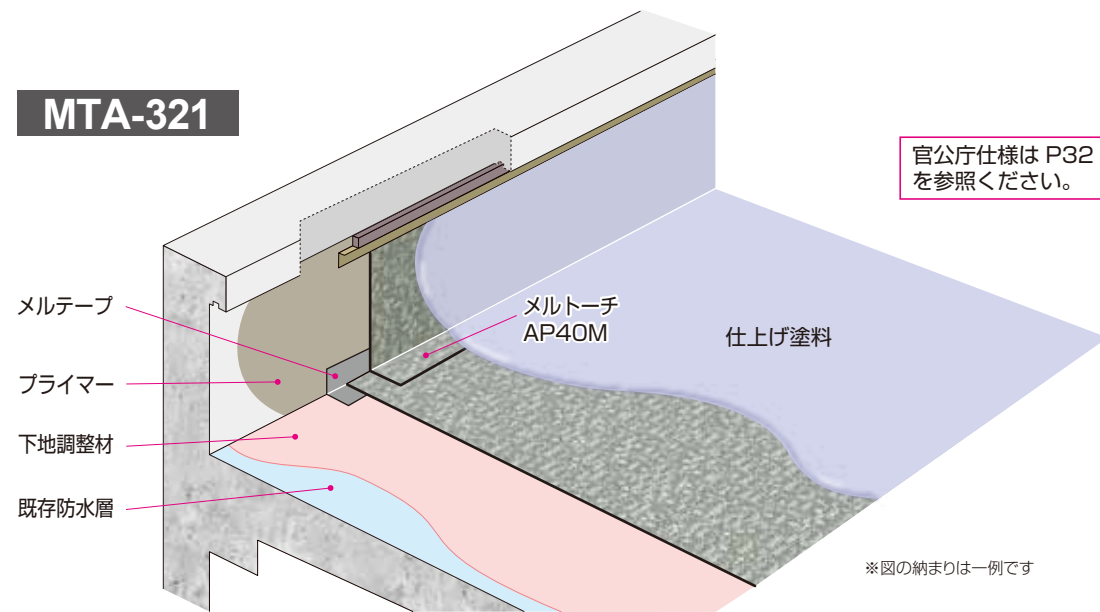
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 断熱材の張り付けは、接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛又はゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させてから張り付けます。

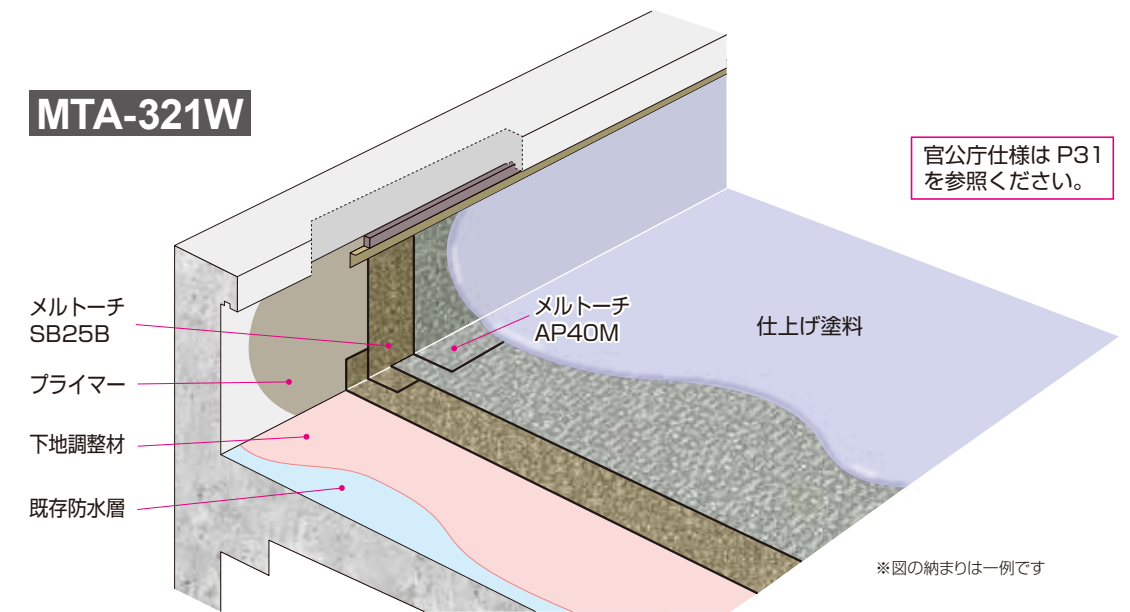
平場の納まり図



露出防水(単層仕様)



露出防水(複層仕様)



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-321 (MTS-321)

MTA-311 (MTS-311) 工法は、3 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - ・RC、PCa、ALCパネル

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RA ベースト II 又は カリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
3	仕上げ塗料	RA コート (II) 0.5 RA 高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層、防水層全面撤去時)

TA-321 (TS-321)

TA-311 (TS-311) 工法は、3 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(RC、PCa、ALCパネル下地)

(単位: kg/m²)

1	プライマー	メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
3	仕上げ塗料	RA コート (II) 0.5 RA 高反射コート 0.5	

改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-321W (MTS-321W)

MTA-311W (MTS-311W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(アスファルト防水下地)

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RA ベースト II 又は カリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RA コート (II) 0.5 RA 高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層、防水層全面撤去時)

TA-321W (TS-321W)

TA-311W (TS-311W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(RC、PCa、ALCパネル下地)

(単位: kg/m²)

1	プライマー	メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RA コート (II) 0.5 RA 高反射コート 0.5	

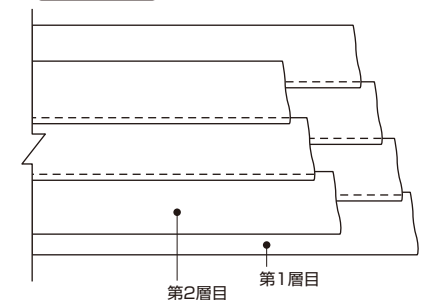
- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
3. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
3. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

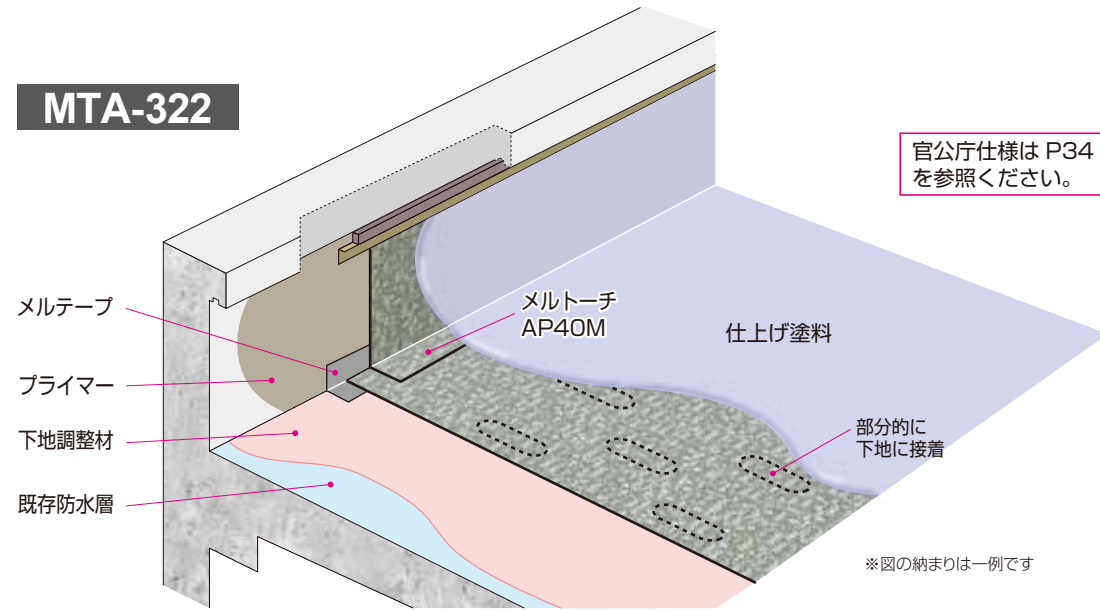
■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。

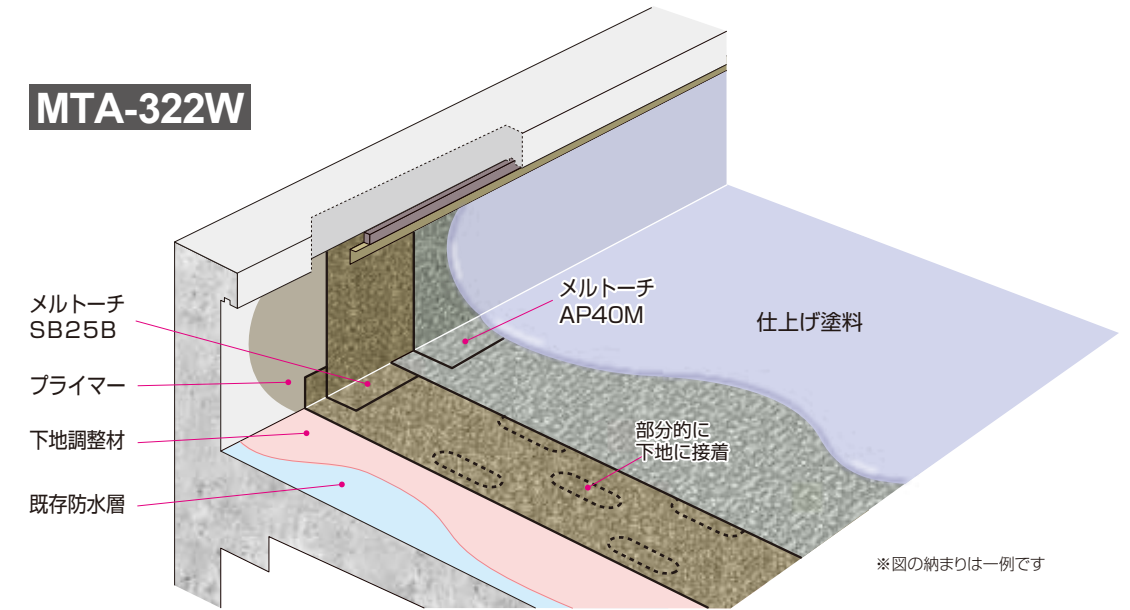
平場の納まり図



露出点張り防水(単層仕様)



露出点張り防水(複層仕様)



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-322 (MTS-322)

MTA-312 (MTS-312) 工法は、3 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - 施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RAペーストⅡ又はカリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M) 点張り	
3	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TA-322 (TS-322)

TA-312 (TS-312) 工法は、3 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- 非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa、ALCパネル下地)
 - 施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/m²)

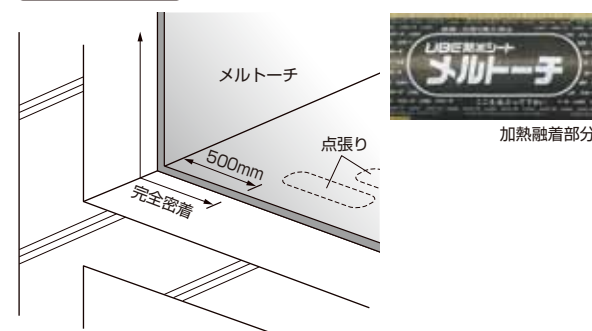
1	プライマー	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M) 点張り	
3	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
2. 脱気筒を設置する場合は「25~100m²に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは、2が密着仕様になります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- メルトーチの裏面フィルムに部分接着する場所が印刷されていますので、この部分を良く炙り下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500mm手前までとし、その他の範囲は密着張りとなります。
- 点張り工法によって下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。

立ち上がりの納まり図



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-322W (MTS-322W)

MTA-312W (MTS-312W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - 施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RAペーストⅡ又はカリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B 点張り	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

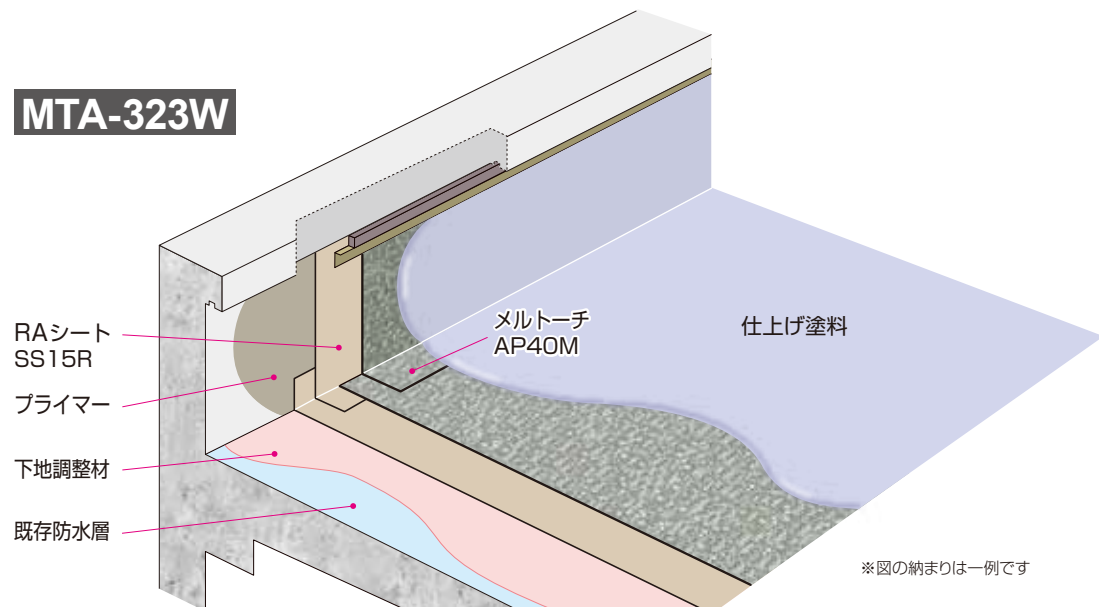
- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
2. 脱気筒を設置する場合は「25~100m²に1個」を目安に設置します。
3. 立上りは、2が密着仕様になります。
4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
5. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にないように平行に張り付けます。
- メルトーチの裏面フィルムに部分接着する場所が印刷されていますので、この部分を良く炙り下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500mm手前までとし、その他の範囲は密着張りとなります。
- 点張り工法によって下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。

粘着シート併用露出密着防水(複層仕様)

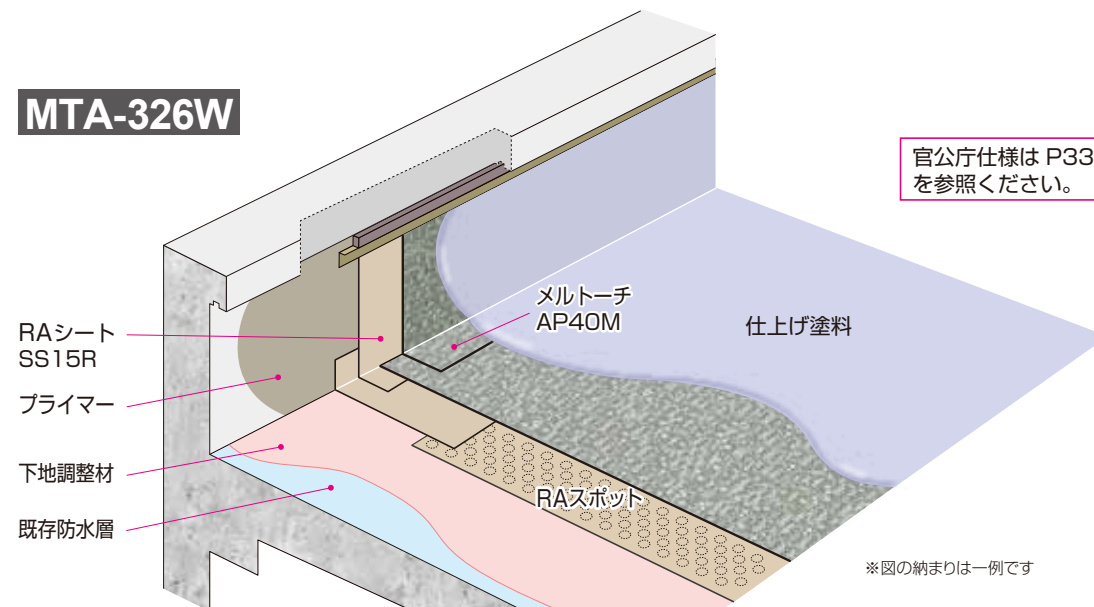
MTA-323W



※図の納まりは一例です

部分粘着シート併用露出絶縁防水(複層仕様)

MTA-326W



官公庁仕様はP33を参照ください。

※図の納まりは一例です

改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-323W (MTS-323W)

MTA-313W (MTS-313W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

適用 ・ 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RAベーストⅡ又はカリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	RAテープSU1520	
2	防水層(一層目)	RAシート SS15R	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築 改修

(既存保護層、防水層全面撤去時又は既存防水層が加硫ゴムシートの場合)

TA-323W (TS-323W)

TA-313W (TS-313W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

適用 ・ 非歩行用屋上(RC, PCa, ALCパネル下地)

(単位: kg/m²)

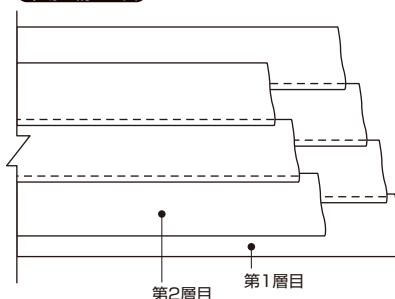
1	プライマー	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	RAテープSU1520	
2	防水層(一層目)	RAシート SS15R	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. RAシートSS15Rの3枚重ね部は水みちになり易いのでRAシール処理を行なってください。
 3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 4. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 5. 工程2の立上りRAシートSS15RはメルトーチSB25Bへの変更が可能です。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 1層目のRAシートは離型紙を剥しながら空気を抱きこまないように下地へ張り付けます。
- 2層目のメルトーチはトーチバーナーで加熱しながら張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 常温着工法のRAシートとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法です。
- 既存防水層が高分子系(塩化ビニル樹脂系シートを除く)、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行ってからプライマーを塗布して施工してください。

平場の納まり図



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-326W (MTS-326W)

MTA-316W (MTS-316W) 工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

適用 ・ 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 ・ 施工後にフクレの生じ易い下地での脱気工法

(単位: kg/m²)

1	下地調整材	RAベースト(Ⅱ)又はカリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	RAテープSU1520	
2	防水層(一層目)	平場 RAスポット SM15C 密着部及び立上り RAシート SS15R	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) RA高反射コート	0.5 0.5

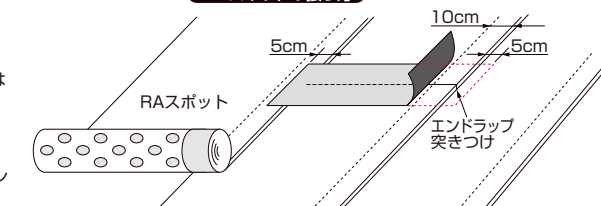
※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. RAシートSS15Rの3枚重ね部は水みちになり易いのでRAシール処理を行なってください。
 3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 4. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 5. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
 6. 工程2の密着部及び立上りのRAシートSS15RはメルトーチSB25Bへの変更が可能です。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

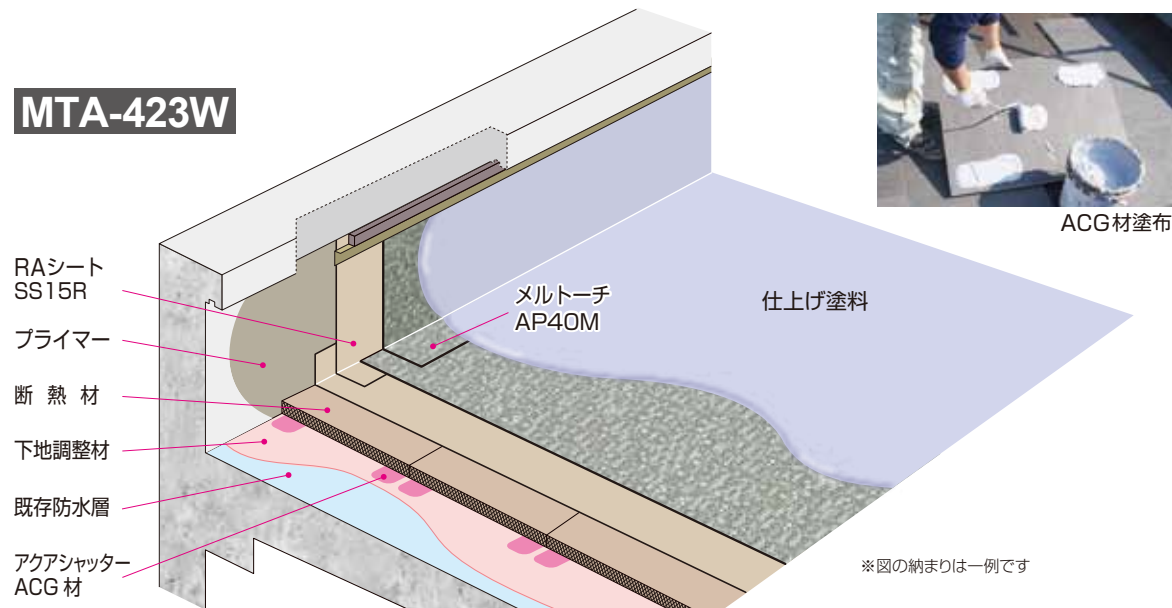
- 1層目のRAスポットは離型紙を剥しながら下地へ張り付けます。
- RAスポットの張り付け範囲は出入隅の約500mm手前とします。
- RAスポットのジョイント処理はサイドラップ部はそのまま100mm重ねますがエンドラップ部は突き付けてその上に200mmのメルテープを張り付けます。
- 2層目のメルトーチはトーチバーナーで加熱しながら張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分粘着型通気シートとのRAスポットとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法で、フクレ防止が可能、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 既存防水層が高分子系(塩化ビニル樹脂系シートを除く)、塗膜系で撤去しない場合は、必ずユービーカチオンや樹脂モルタルなどで下地処理を行ってからプライマーを塗布して施工してください。

RAスポットの張り方



粘着シート併用露出断熱密着防水(複層仕様)

MTA-423W



改修 (既存アスファルト防水層非撤去時)

MTA-423W (MTS-423W)

MTA-413W(MTS-413W)工法は、6仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - ・RC、デッキプレート、PCa下地

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	メルベース又はカリボウベース	1.0~1.5
2	接着剤	アクアシャッターACG材 点張り (断熱材1枚につき5ヶ所以上点張り)	1.5
3	断熱層	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	
	増張り(役物回り)	RAテープ SU1520	
4	防水層(一層目)	RAシート SS15R	
5	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
6	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

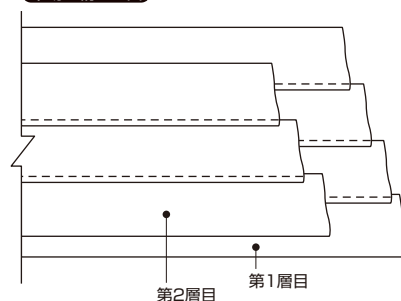
※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 断熱材の厚みは標準で30mmとしていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
 3. 立上りは、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略し、RAプライマー塗布後、増張り以降の工程を行います。
 4. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
 5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
 6. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 7. 工程4の立上りRAシートSS15RはメルトーチSB25Bへの変更が可能です。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

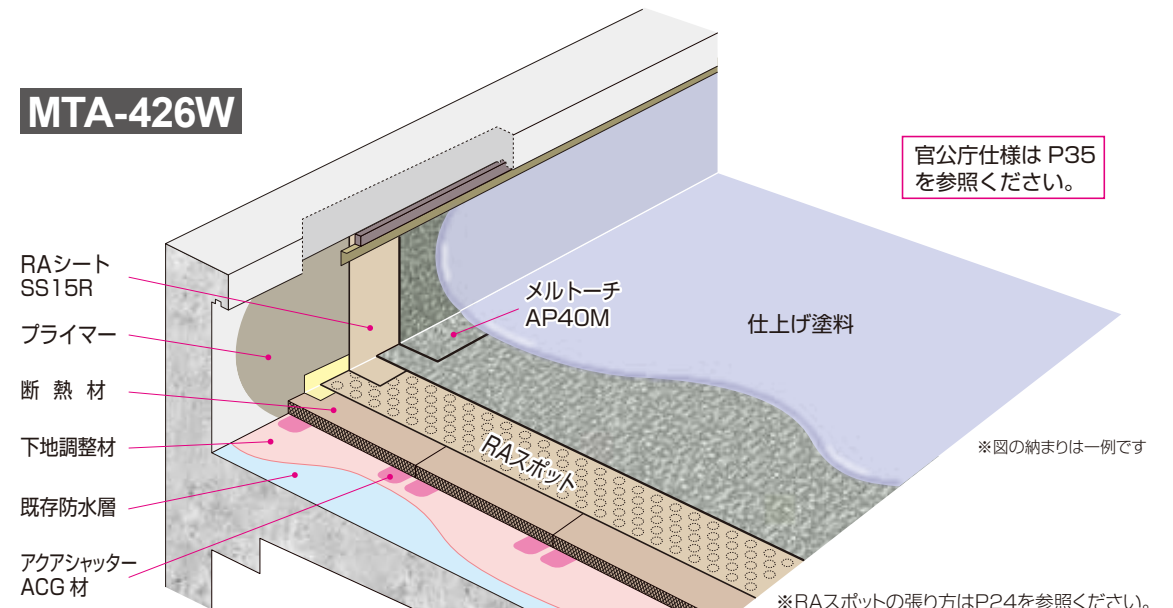
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所に平行に張り付けます。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。(既存が高分子系防水層の場合は必須)

平場の納まり図



部分粘着シート併用露出断熱絶縁防水(複層仕様)

MTA-426W



改修 (既存アスファルト防水層非撤去時)

MTA-426W (MTS-426W)

MTA-416W(MTS-416W)工法は、6仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - ・施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	メルベース又はカリボウベース	1.0~1.5
2	接着剤	アクアシャッターACG材 点張り (断熱材1枚につき5ヶ所以上点張り)	1.5
3	断熱層	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	
	増張り(役物回り)	RAテープ SU1520	
4	防水層(一層目)	平場 RAスポット SM15C 立上り RAシート SS15R	
5	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
6	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 断熱材の厚みは標準で30mmとしていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
 3. 原則として立上りの防水層(1層目)は、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略してプライマー塗布後、メルトーチSB25Bを用います。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 出隅及び入隅は、改修アスファルトシート張りに先立ち、RAテープ(SU1520)を用いて増張り処理を行います。
- 1層目のRAスポットのジョイント処理はサイドラップは100mm重ねますがエンドラップは突き付けてその上に200mm幅のRAシート(SS20R)又はメルテープを張り付けます。

新築 改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TA-426W (TS-426W)

TA-416W(TS-416W)工法は、6仕上げ塗料の工程を省略します。

- 適用**
- ・非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa下地)
 - ・施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/㎡)

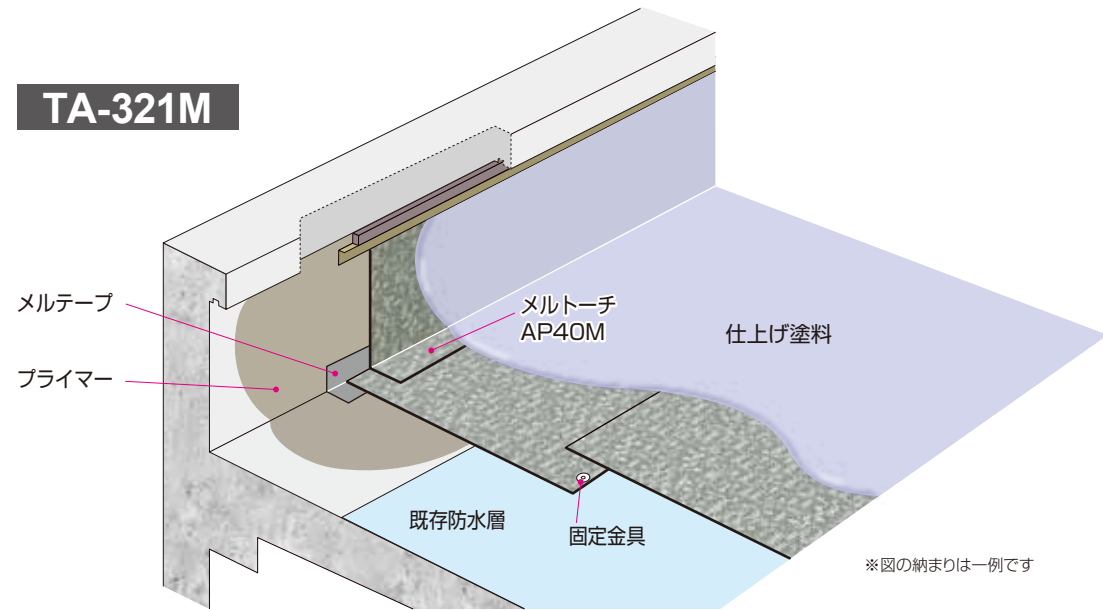
1	プライマー	UBE水性プライマー	0.2
2	接着剤*	RA水性ボンド	0.3
3	断熱層	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	
	増張り(役物回り)	RAテープ SU1520	
4	防水層(一層目)	平場 RAスポット SM15C 立上り RAシート SS15R	
5	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
6	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※工程2の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg/㎡点張りに変更可能です。

4. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
 5. 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
 6. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 7. 防湿層設置の場合は、弊社販売担当者にお問い合わせください。
 8. 工程4の立上りRAシートSS15RはメルトーチSB25Bへの変更が可能です。

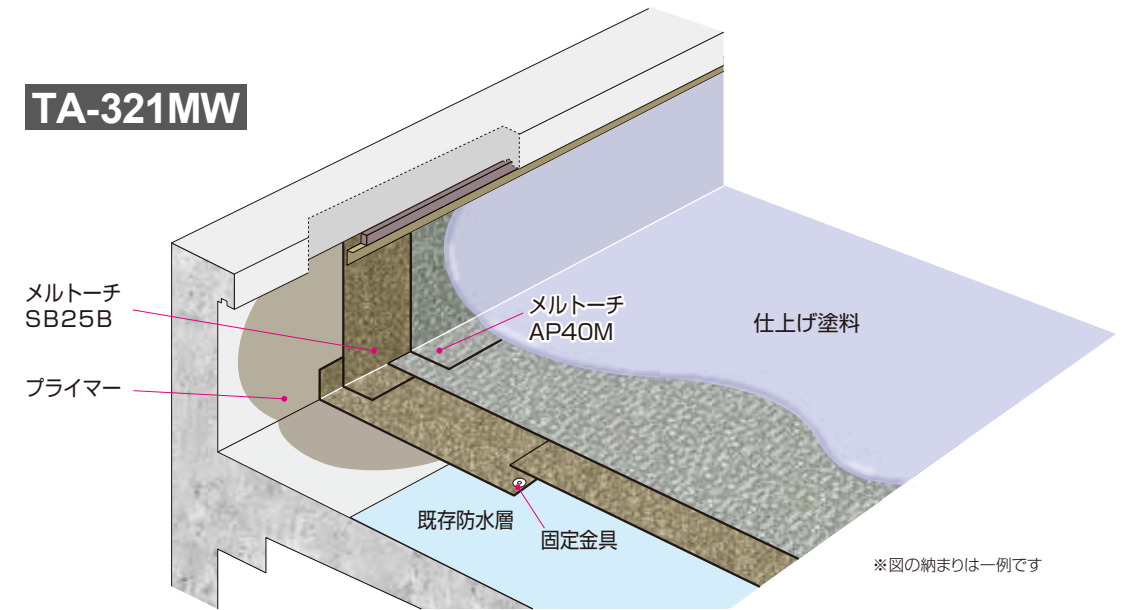
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所に平行に張り付けます。
- アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。(既存が高分子系防水層の場合は必須)

機械的固定工法(単層仕様)



※図の納まりは一例です

機械的固定工法(複層仕様)



※図の納まりは一例です

新築 改修 (既存保護層又は露出防水層を残す場合)

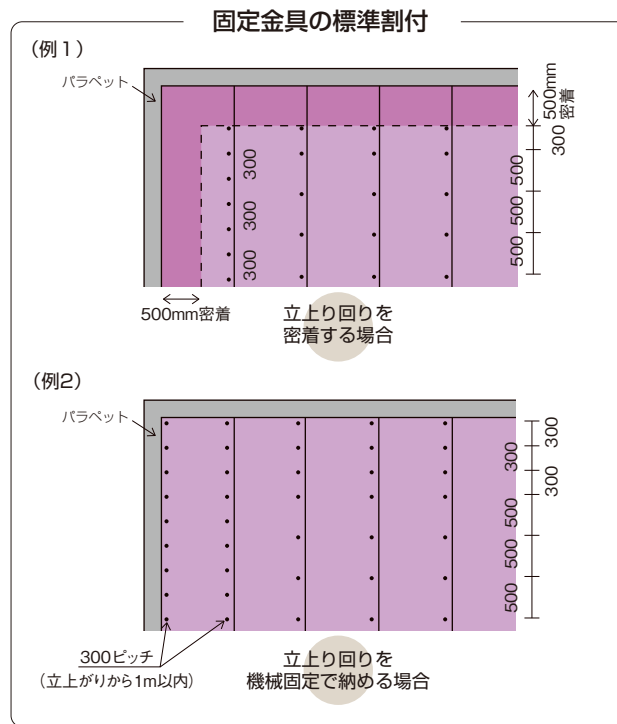
TA-321M (TS-321M)

TA-311M (TS-311M)工法は、3 仕上げ塗料の工程を省略します。

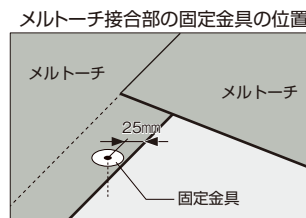
適用 ・非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa下地)

(単位: kg/m²)

1	プライマー	メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマー (立上り及び立上り周辺のみ)	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M) 固定金具(ディスク/クロウフラグ)	
3	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) ----- 0.5 RA高反射コート ----- 0.5	



- (注) 1. ()内のTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 1のプライマーは下地へ密着張りする立上り及び役物回りのみ塗布します。
 3. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
 4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 5. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 6. ALC下地の場合は適用できません。



■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 固定金具の取り付けはメルトーチの割り付けや風荷重の分布等を考慮して固定金具の種類や間隔を決定します。
- 固定金具の下穴は、使用する金具に応じて所定の直径と深さを確保します。
- 部分固定工法ですので下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 機械的固定工法の為、湿潤面下地での施工も可能です。

新築 改修 (既存保護層又は露出防水層を残す場合)

TA-321MW (TS-321MW)

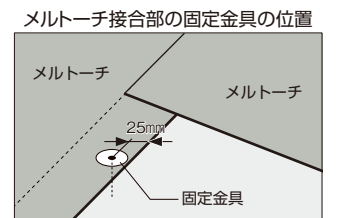
TA-311MW (TS-311MW)工法は、4 仕上げ塗料の工程を省略します。

適用 ・非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa下地)

(単位: kg/m²)

1	プライマー	メルトーチプライマー又は UBE 水性プライマー (立上り及び立上り周辺のみ)	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B 固定金具(ディスク/クロウフラグ)	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) ----- 0.5 RA高反射コート ----- 0.5	

- (注) 1. ()内のTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 1のプライマーは下地へ密着張りする立上り及び役物回りのみ塗布します。
 3. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
 4. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 5. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
 6. ALC下地の場合は適用できません。

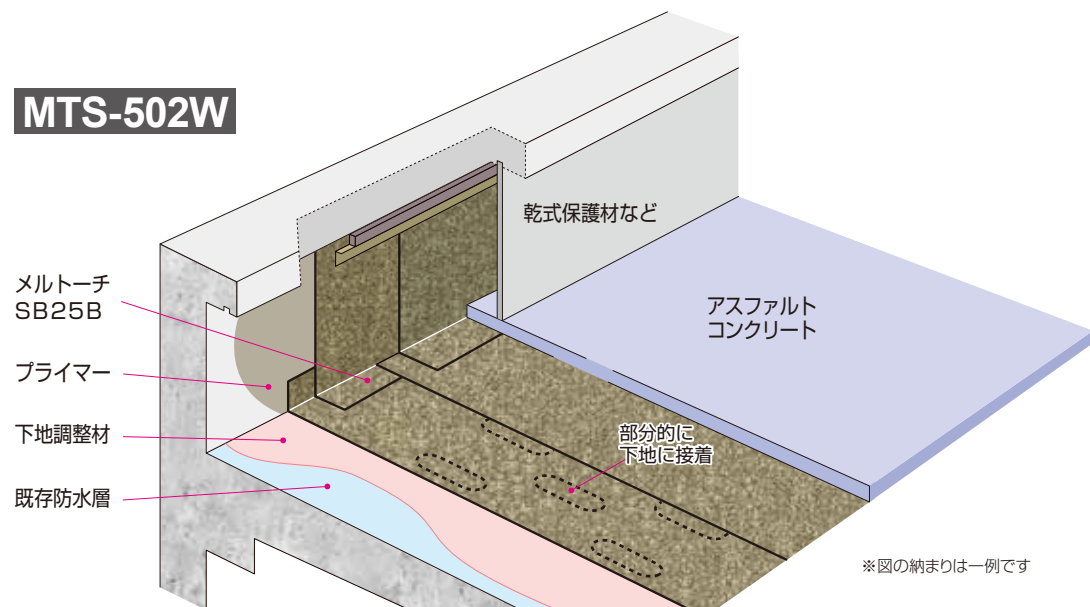


■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 固定金具の取り付けはメルトーチの割り付けや風荷重の分布等を考慮して固定金具の種類や間隔を決定します。
- 固定金具の下穴は、使用する金具に応じて所定の直径と深さを確保します。
- 複層仕様の2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
- 部分固定工法ですので下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。
- 機械的固定工法の為、湿潤面下地での施工も可能です。



MTS-502W



※図の納まりは一例です

改修 (既存アスファルト防水層非撤去時)

MTS-502W

- 適用**
- 一般駐車場
 - RC、デッキプレート版下地

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	RAベーストII又はカリボウベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B 点張り	
3	防水層(二層目)	メルトーチ SB25B	
4	保護層	アスファルトコンクリート 50mm厚以上 (別途工事)	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築

改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TS-502W

- 適用**
- 一般駐車場
 - RC、デッキプレート版下地

(単位: kg/㎡)

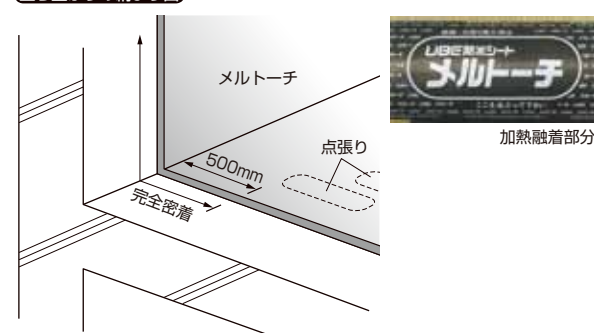
1	プライマー	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B 点張り	
3	防水層(二層目)	メルトーチ SB25B	
4	保護層	アスファルトコンクリート 50mm厚以上 (別途工事)	

(注) 1. 立上りの既存防水層は原則撤去します。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- メルトーチの裏面フィルムに部分接着させる場所が印刷されていますのでこの部分を良く炙り、下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500mm手前までとし、その他の範囲は密着張りとなります。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所に平行に張り付けます。
- 点張り工法により下地との絶縁が図れます。

立上りの納まり図



立上り工法一覧表

TA-321 (TS-321) 露出単層仕様

工程	製品	使用量、厚み
下地処理	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2kg/㎡
防水層	メルトーチ AP40M (SB40M)	4.0mm厚
仕上げ塗料	RAコート又はRAコートII RA高反射コート	0.5kg/㎡ 0.5kg/㎡

TA-321W (TS-321W) 露出複層仕様

工程	製品	使用量、厚み
下地処理	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2kg/㎡
防水層(下層)	メルトーチ SB25B	2.5mm厚
防水層(上層)	メルトーチ AP40M (SB40M)	4.0mm厚
仕上げ塗料	RAコート又はRAコートII RA高反射コート	0.5kg/㎡ 0.5kg/㎡

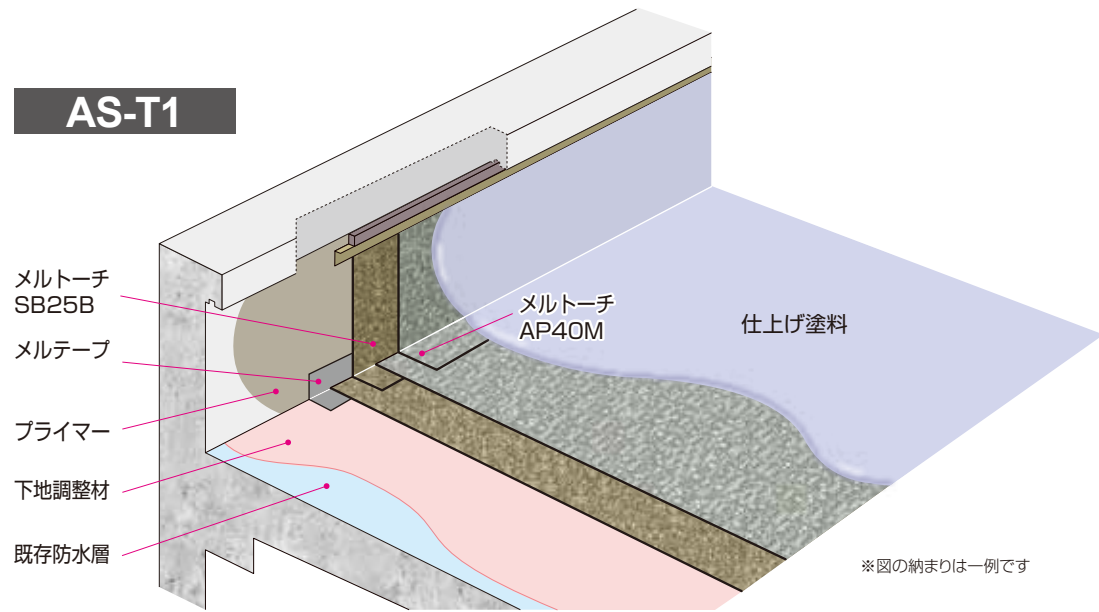
TA-323W (TS-323W) 粘着シート併用露出複層仕様

工程	製品	使用量、厚み
下地処理	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2kg/㎡
防水層(下層)	RAシート SS15R	1.5mm厚
防水層(上層)	メルトーチ AP40M (SB40M)	4.0mm厚
仕上げ塗料	RAコート又はRAコートII RA高反射コート	0.5kg/㎡ 0.5kg/㎡

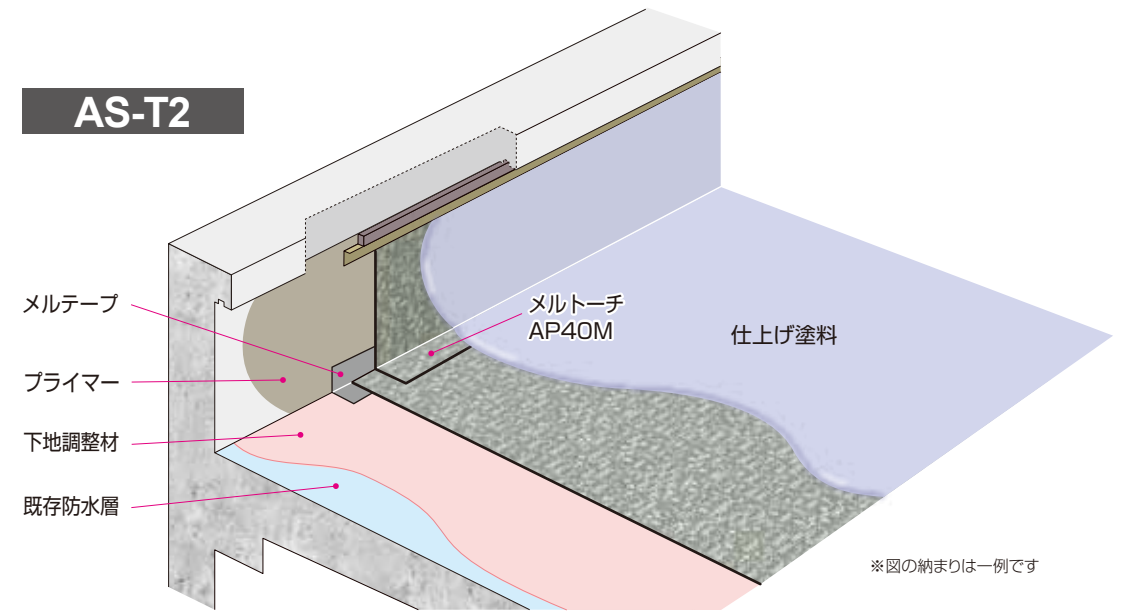
TS-101W 非露出(保護打設)複層仕様

工程	製品	使用量、厚み
下地処理	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2kg/㎡
防水層(下層)	メルトーチ SB25B	2.5mm厚
防水層(上層)	メルトーチ SB25B	2.5mm厚
保護層	乾式保護材又はモルタル、コンクリート等	(別途工事)

官公庁仕様 露出防水(複層仕様)



官公庁仕様 露出防水(単層仕様)



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-321W (MTS-321W)

適用 ・ 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	RAペーストⅡ又はメルベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層、防水層全面撤去時)

TA-321W (TS-321W)

適用 ・ 非歩行用屋上(RC、PCa、ALCパネル下地)

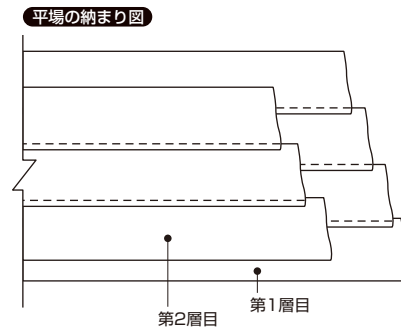
(単位: kg/㎡)

1	プライマー	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	メルトーチ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 3. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-321 (MTS-321)

適用 ・ 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 ・ RC、PCa、ALCパネル

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	RAペーストⅡ又はメルベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
3	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層、防水層全面撤去時)

TA-321 (TS-321)

適用 ・ 非歩行用屋上(RC、PCa、ALCパネル下地)

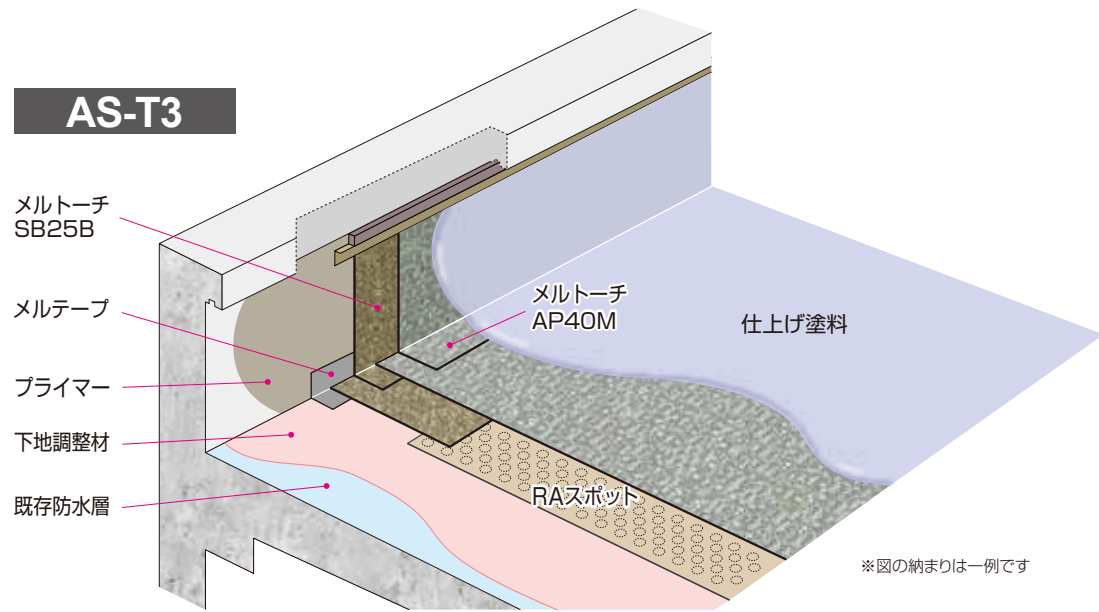
(単位: kg/㎡)

1	プライマー	メルトーチプライマー又はUBE水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
3	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) 0.5 RA高反射コート 0.5	

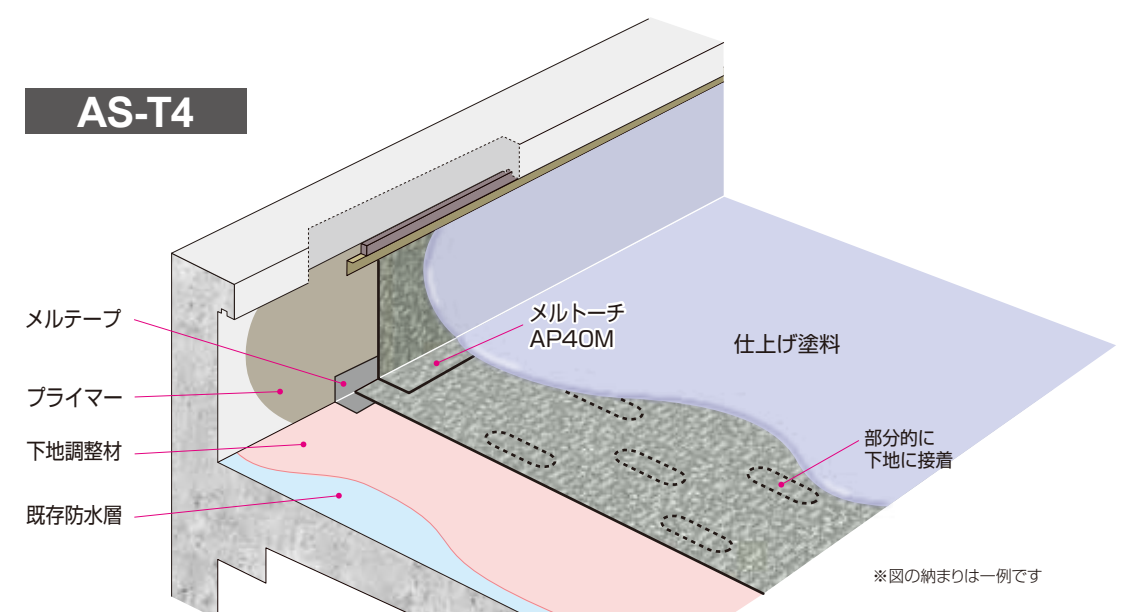
- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
 3. メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

工法一覧表
 仕様・規格
 副資材一覧表
 技術資料
 標準施工手順
 改修時の処理
 工法概要
 官公庁仕様
 架台・物回りの施工工法
 安全管理指針
 立ち上り納まり図例
 注意事項

官公庁仕様 部分粘着シート併用露出絶縁防水(複層仕様)



官公庁仕様 露出絶縁防水(穴あきシート+単層仕様)



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-326W (MTS-326W)

- 適用**
- 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - 施工後にフクレの生じやすい下地での脱気工法

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	RAペーストII	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	平場 RAスポット SM15C 密着部及び立上り メルテープ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルテープ AP40M (メルテープ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(II) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※工程2の平場用シート RAスポット SM20C をメルテープ AP25B の部分溶着工法に変更できます。
(TA-322W 工法)
※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルテーププライマー又は UBE 水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TA-326W (TS-326W)

- 適用**
- 非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa、ALCパネル下地)
 - 施工後にフクレの生じやすい下地での脱気工法

(単位: kg/㎡)

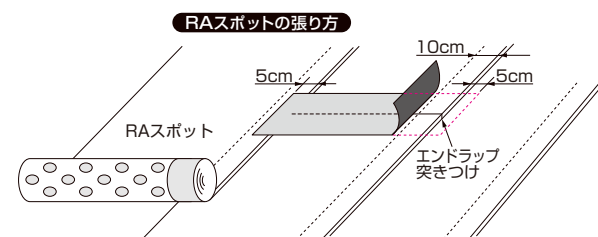
1	プライマー	メルテーププライマー又は UBE 水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層(一層目)	平場 RAスポット SM15C 密着部及び立上り メルテープ SB25B	
3	防水層(二層目)	メルテープ AP40M (メルテープ SB40M)	
4	仕上げ塗料	RAコート(II) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※工程2の平場用シート RAスポット SM20C をメルテープ AP25B の部分溶着工法に変更できます。
(TA-322W 工法)

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルテープSB40Mを用います。
2. 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
4. メルテープAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 1層目のRAスポットは離型紙を剥しながら下地へ張り付けます。
- RAスポットの張り付け範囲は出入隅の約500mm手前とします。
- RAスポットのジョイント処理はサイドラップ部はそのまま100mm重ねますがエンドラップ部は突き付けてその上に200mmのメルテープを張り付けます。
- 2層目のメルテープはトーチバーナーで加熱しながら張り付けます。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所に平行に張り付けます。
- 部分粘着型通気シートのRAスポットとトーチ工法のメルテープを併用した複合工法で、フクレ防止が可能、下地亀裂追従性が更に高まります。



改修 (既存アスファルト防水層を残す場合)

MTA-322 (MTS-322)

- 適用**
- 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - 施工後にフクレの生じやすい下地

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	RAペーストII又は メルベース	1.0~1.5
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルテープ AP40M (メルテープ SB40M) 点張り	
3	仕上げ塗料	RAコート(II) 0.5 RA高反射コート 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルテーププライマー又は UBE 水性プライマーを塗布します。

新築 改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TA-322 (TS-322)

- 適用**
- 非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa、ALCパネル下地)
 - 施工後にフクレの生じやすい下地

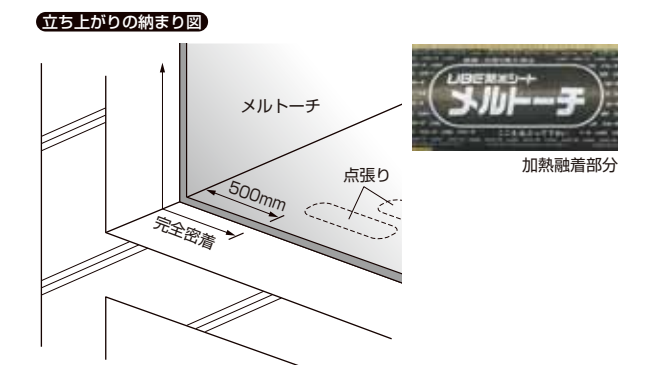
(単位: kg/㎡)

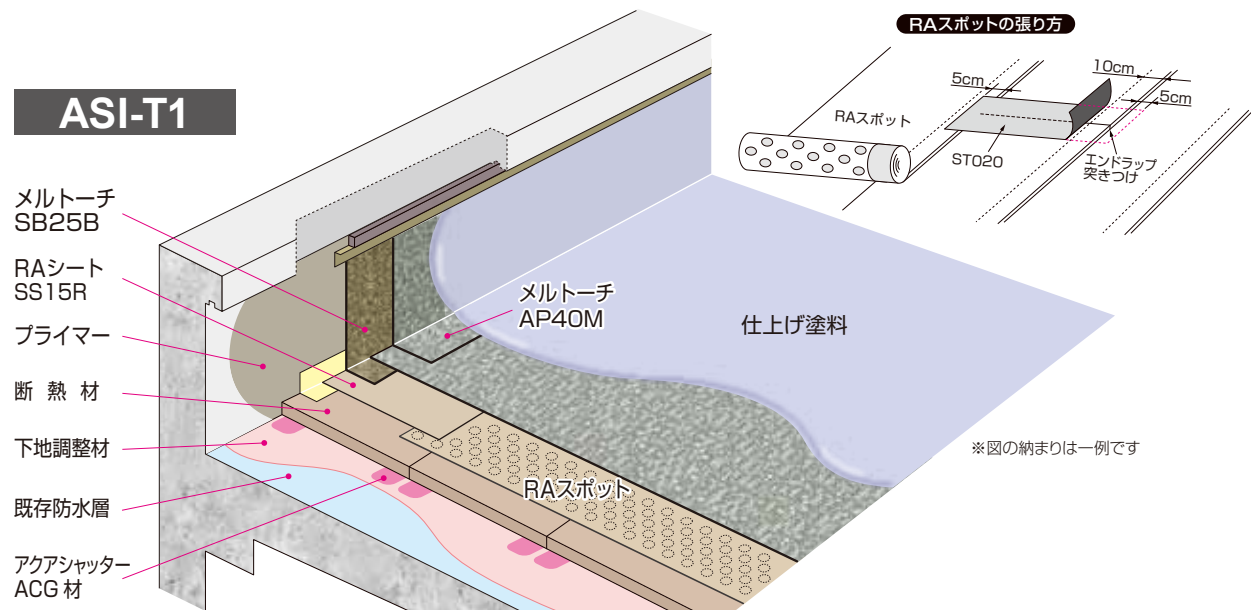
1	プライマー	メルテーププライマー又は UBE 水性プライマー	0.2
	増張り(役物回り)	メルテープ T2520S	
2	防水層	メルテープ AP40M (メルテープ SB40M) 点張り	
3	仕上げ塗料	RAコート(II) 0.5 RA高反射コート 0.5	

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルテープSB40Mを用います。
2. 脱気筒は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
3. 立上りの既存防水層は原則撤去します。
4. メルテープAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- メルテープの裏面フィルムに部分接着する場所が印刷されていますので、この部分を良く炙り下地へ接着させます。
- 点張りする範囲は出入隅の約500mm手前までとし、その他の範囲は密着張りとなります。
- 点張り工法によって下地との絶縁が図れ、下地亀裂追従性が更に高まります。





改修 (既存アスファルト防水層非撤去時)

MTA-426W (MTS-426W)

- 適用
 - 非歩行用屋上(アスファルト防水下地)
 - 施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/㎡)

1	下地調整材	メルベース	1.0~1.5
2	接着剤	アクアシャッターACG材 点張り (断熱材1枚につき5ヶ所以上点張り)	1.5
3	断熱層	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	
	増張り(役物回り)	RAテープ ST020	
4	防水層(一層目)	平場 絶縁部 RAスポット SM15C 密着部 RAシート SS15R 立上り メルトーチ SB25B	
5	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
6	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) ----- 0.5 RA高反射コート ----- 0.5	

※立上り及び既存防水層を撤去した下地には、メルトーチプライマー又はUBE水性プライマーを塗布します。

新築

改修 (既存保護層を残す場合、防水層全面撤去時)

TA-426W (TS-426W)

- 適用
 - 非歩行用屋上(RC、デッキプレート、PCa下地)
 - 施工後にフクレの生じ易い下地

(単位: kg/㎡)

1	プライマー	UBE水性プライマー	0.2
2	接着剤※	RA水性ボンド	0.3
3	断熱層	硬質ウレタンフォーム GFボードまたは同等品	
	増張り(役物回り)	RAテープ ST020	
4	防水層(一層目)	平場 絶縁部 RAスポット SM15C 密着部 RAシート SS15R 立上り メルトーチ SB25B	
5	防水層(二層目)	メルトーチ AP40M (メルトーチ SB40M)	
6	仕上げ塗料	RAコート(Ⅱ) ----- 0.5 RA高反射コート ----- 0.5	

※工程2の接着剤を下地の不陸が大きい場合は、アクアシャッターACG材1.5kg/㎡点張りに変更可能です。

- (注) 1. ()内のTS・MTS工法No.は寒冷地仕様です。その場合メルトーチSB40Mを用います。
 2. 断熱材の厚みは標準で30mmとしていますが、省エネ基準、次世代省エネ基準に基づく地域区分毎の断熱材の熱抵抗値により施工時の採用厚みは変化します。
 3. 原則として立上りの防水層(1層目)は、下地調整材、接着剤、断熱層の工程を省略してプライマー塗布後、メルトーチSB25Bを用います。

■ 施工上のチェックポイント及び工法の特長

- 断熱材は硬質ウレタンフォーム、1層目はRAスポットSM20Cを用います。
- 断熱材の張り付けは接着面と断熱材の両方にRA水性ボンドをローラー刷毛、ゴムベラ等で塗布し、タックが少し残る程度まで乾燥させて張り付けます。
- 出隅及び入隅は、改質アスファルトシート張りに先立ち、RAテープ(ST020)を用いて増張り処理を行います。
- 1層目のRAスポットのジョイント処理はサイドラップは100mm重ねますがエンドラップは突き付けてその上に200mm幅のRAシート(SS20R)又はメルトーチを張り付けます。

- 脱気筒を設置する場合は「25~100㎡に1個」を目安に設置します。
- 改修の場合、立上りの既存防水層は原則撤去します。
- メルトーチAP40M(SB40M)は、4.5mm厚のAP45M(SB45M)への変更が可能です。AP45Mは受注生産品となります。詳しくは弊社販売担当者にお問合せください。
- 防湿層設置の場合は、弊社販売担当者にお問い合わせください。

- なお、立上りから500mmはRAシート(SS20R)を用い密着張りになります。
- 2層目の接合部は1層目の接合部と同一箇所にならないように平行に張り付けます。
 - 部分粘着型通気シートのRAスポットとトーチ工法のメルトーチを併用した複合工法です。
 - フクレ防止が可能で、下地亀裂追従性が更に高まります。
 - アクアシャッターACG材による点張りに替えてRA水性ボンドを塗布して張り付ける場合は、ユービーカチオンや樹脂モルタルなどで表面の段差や凹凸を平滑にしてください。(既存が高分子系防水層の場合は必須)

●UR都市機構(都市再生機構保全工事共通仕様書)

屋根防水部分修繕工事 アスファルト防水P型・常温工法

工程	①	②	③	④
絶縁部	メルトーチプライマー 0.2kg/㎡	メルテープT2520S	メルトーチAP40M	RAシート
一般部	カリポウベース 1.0~1.5kg/㎡	—	メルトーチAP40M	RAシート

- (注) 1. 絶縁部を設ける部分は、既存防水層を200mm幅で撤去し、プライマー塗布後にメルテープT2520Sを張り付けます。
 2. 絶縁部を超えてメルトーチAP40Mを既存防水層に張りかける接合幅は「150mm」、メルトーチAP40M相互間の接合幅は「幅方向:100mm、長手方向:150mm」とします。

屋根外断熱等部分修繕工事 アスファルト防水常温工法

●指定工法名 「TA-311CK」

工程	①	②	③	④
露出部				RAコート又はRAコートII 0.3kg/㎡
断熱部	〈既存防水撤去部〉 メルトーチプライマー 0.2kg/㎡	メルテープT2520S (増張り)	メルトーチAP40M	—
	〈既存防水層残存部〉 カリポウベース 1.0~1.5kg/㎡			
成型板表面補強部		—	RAシートSS15R	RAコート又はRAコートII 0.3kg/㎡

- (注) 1. メルトーチAP40M相互間の接合幅は、幅方向 100mm、長手方向 150mmとします。
 2. 既存成型板のシワ、反りなどを補強する場合は新品と交換するか、凹凸を平滑処理後、メルベースを塗布します。

脱気絶縁複合防水工事(非歩行用)

●指定工法名 「TA-316WK」

工程	①	②	③	④	⑤
脱気絶縁部	メルトーチプライマー 0.2kg/㎡	メルテープT2520S (増張り)	RAスポット SM15C	メルトーチAP40M	RAコート又はRAコートII 0.3kg/㎡
密着部			—		

- (注) 1. メルトーチによる増張りの範囲は、改修用ドレンの中心から周囲500mm、伸縮目地上、出入隅角、配管回りなどの役物回りです。
 2. メルトーチAP40M相互間の接合幅は、幅方向 100mm、長手方向 150mmとします。
 3. 架台など役物の周囲500mmは、密着部のため、パーフォベース及びRAスポットSM20Cは張りません。
 4. ルーフドレンには周囲を補修した後、改修用ドレンを設置します。

屋根外断熱露出防水工事

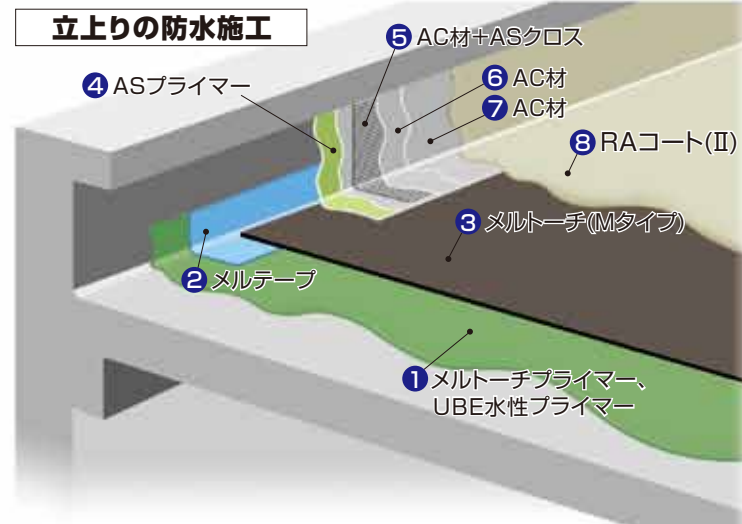
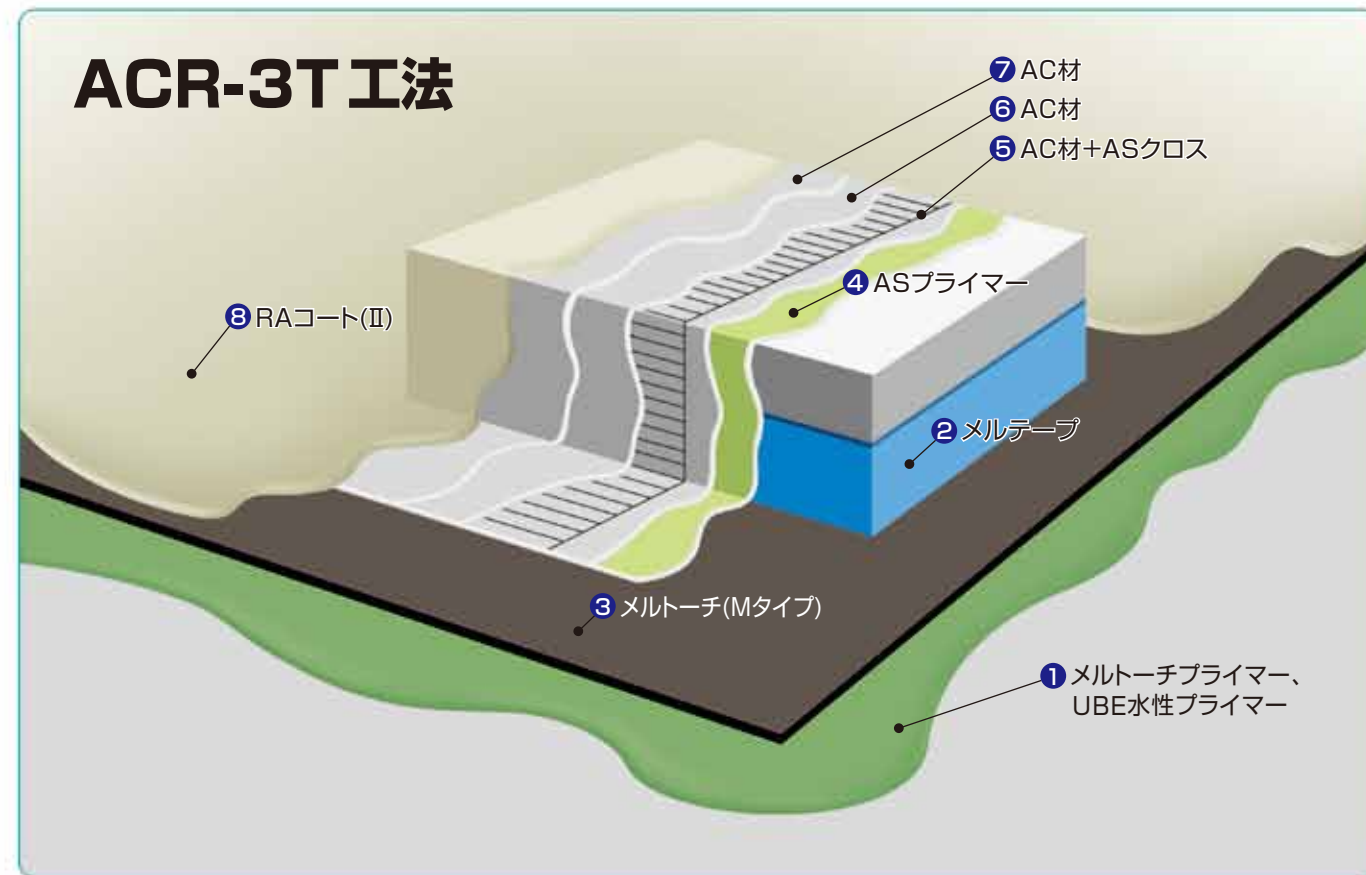
●指定工法名 「TA-426DK」

工程	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
断熱部	〈既存防水撤去部〉 メルトーチプライマー 0.2kg/㎡		〈接着剤〉 アクアシャッターACG 1.0/㎡	〈断熱材〉 GFボード RAテープ MTS-205	RAスポット SM15C	メルトーチAP40M	RAコート又はRAコートII 0.3kg/㎡
非断熱部	〈既存防水残存部〉 カリポウベース 1.0kg/㎡	〈増張り用シート〉 メルトーチSB25B	メルトーチAP40M	RAコート			

- (注) 1. 増張り用のメルトーチSB25Bの張る範囲は、仕様書および特記によります。
 2. メルトーチAP40M相互間の接合幅は、幅方向100mm、長手方向150mmとします。
 3. 特記により水抜きシート設置が必要な場合は、非断熱部にRAスポットを使用します。

架台、役物回り複合法

近年、屋上防水改修工事においては配管や各種通信機器の架台が多く設置されるようになり、シート防水にて施工を行う場合、施工手間が多く掛かる上、漏水の危険性の高い部分となっております。「メルトーチ」と「アクアシャッター-AC」の架台、役物回り複合法は、平場部はシート防水、架台、役物回りは耐久性が高く評価されているポリマーセメント系塗膜防水材「アクアシャッター-AC」を施工することで、それぞれの防水材の持つ特徴を合わせもつことができます。



(注)露出断熱工法(新規・既存)の場合は適用出来ません。

メルトーチ(Mタイプ)/ACR-3T工法

工程表

工程	材料名	使用量 (kg/m ²)	
		シート面	塗膜面
①	メルトーチプライマー or UBE水性プライマー	0.20 (立上り100mm迄)	—
②	メルテープ T2520S	仕様による	—
③	メルトーチ AP40M or SB40M		—
④	ASプライマー	—	0.20
⑤	AC材 (AC原液 : AC混和材 = 18 : 18) + ASクロス	—	1.30
⑥	AC材	—	1.00
⑦	AC材	—	1.00
⑧	RAコート(II) (2回塗り) シルバーは不可	0.50	0.30

仕様材料一覧

材料名	荷姿
メルトーチプライマー UBE水性プライマー	15kg/缶 17kg/缶
メルテープ T2520S	200mm x 15m
メルトーチ AP40M, SB40M	1m x 8m
ASプライマー	18kg/缶
AC原液	18kg/缶
AC混和材	18kg/袋
ASクロス	幅 : 1050mm 長さ : 100m
RAコート(II) グレー、グリーン	15kg/缶

アクアシャッター-AC製品一覧

ASプライマー アクアシャッター-AC専用プライマー

コンクリート下地への浸透性に優れたプライマーです。下地コンクリートに塗布し、防水層の膨れやピンホールを防止します。



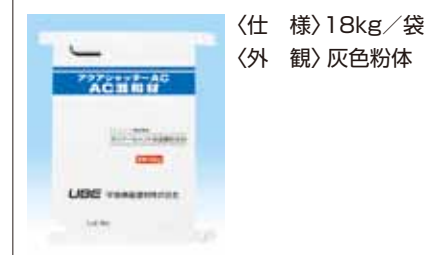
AC原液 防水用原液

耐亀裂性、耐疲労性に優れたアクリル樹脂エマルジョンです。AC混和材と混練して防水材(AC材)として使用します。



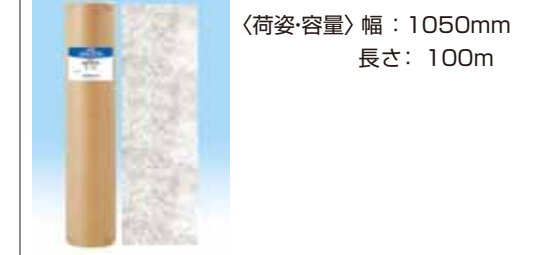
AC混和材 防水用混和材

耐特殊セメント系混和材です。AC原液と混練して防水材(AC材)として使用します。



ASクロス(不織布) 防水層補強用不織布

ナイロン・ポリエステル繊維からなる不織布です。補強性が高く、下地亀裂追従性に優れます。



工法一覧表
 工法概要
 官公庁仕様
 架台・役物回りの複合法
 安全管理指針
 立ち上り納まりの図例
 注意事項

1 安全作業

保護具

トーチ工法による防水施工にあたっては一般的な安全基準を守ると共に防水工事現場の状況に合わせて安全帽、安全帯、作業靴、皮手袋等の着用他作業に適した服装をしなければなりません。

- 安全帽は脱落しないように顎紐をしっかり結んでおかなければ全く着用の意味がありません。
- 火を使う作業で合成繊維の布製手袋（軍手）はトーチバーナーや溶融したコンパウンドが手袋を溶かし皮膚に食い込み火傷をより酷くしてしまうので、皮手袋を着用してください。
- 作業靴については防水施工時に改質アスファルトルーフィングの表面を痛めないような工夫をした靴底をお勧めします。
- 長袖シャツ、長ズボンなどトーチバーナーを取扱うのに適した服装を着用してください。
- 手ぬぐい等は首に巻かないできちんと折りたたみ、腰に挟み込んでください。

作業時の心掛け

- 危険な場所、安全通路、避難通路をあらかじめ確認してください。
- 万一の場合の災害にあっても、冷静な判断ができるよう防災訓練等には積極的に参加してください。
- 現場の安全標識を良く見て、現場安全意識の高揚に努めてください。
- 種々の施設、機械工具、材料等の不安全状態を無くし、常に整理整頓を心掛けてください。
- パラペットが低い場合、墜落の危険の恐れがあるので、丈夫な保護柵を設置し安全帯を使用してください。
- 万一の火災に備えて消火器の設置場所、救急用具の置き場所をあらかじめ確認しておいてください。

2 危険物取扱い上の注意事項

溶剤系のメルトーチプライマーは消防法による規制を受けますが、この他にも、防水下地へ塗布する作業においては労働安全衛生の面からも注意しなければなりません。長時間にわたってプライマーの蒸気を吸入すると急性疾患に係わることもあります。危険物であるプライマー等の塗布作業に当たっては火気、点火源となる恐れのあるものを近付けたり、又、加熱したりすると火災等を引き起こして非常に危険です。取扱いに当たってはこれらの状況を踏まえて、ここでもう一度具体的に注意事項を列記いたします。

- プライマーを扱う時には必ず通風をよくして作業してください。
- ビット内など通風の悪い所では防爆型の通風機で室内の換気に努め、必ず2人以上で作業を行い、お互い連絡を取り合いながら短時間で交替してください。
- プライマー塗布作業時には火気に万全の注意をしてください。
- プライマーの保管には直射日光を受ける所を避け、一度に多量のプライマーを現場に持ち込まないでください。
- 万一の事故発生に備えて消火器を風上側に設置してください。

3 プロパンガス(LPG)ボンベ、トーチバーナー取扱い上の注意事項

消防法ではLPGを300kg以上貯蔵し、又、取扱う場合には所轄消防署長に届け出が必要になるため、一度に多量のLPGを現場に持ち込まない様にしてください。又、取扱いに当たっては次の事項に注意して、安全に作業ができる様心掛ける事が必要です。

作業前の点検

- 許可された容器に充填されているプロパンガスボンベを使用してください。
- プロパンガス圧力調整用のレギュレーターを通して減圧し最適なガス圧力で使用してください。
- プロパンガス専用の指定ホースを使用してください。
- ガスホースが痛み摩耗していないか点検し、異常があれば直ちに指定のガスホースに取り替えてください。

- プロパンガスボンベは垂直に立てて使用してください。
- ガスに点火する前に石鹸水を用いてレギュレーター、ガスホース、トーチバーナーの接合部をプロパンガスの漏洩が無いか検査、チェックしてください。

着火時

- プロパンガスへの点火には、マッチ、使い捨てライター等を用いると着火時に火傷の恐れがあるので、手元が着火口より離れて点火できるものを使用してください。
- トーチバーナー使用中プロパンガスの臭いがしたらプロパンガスボンベの元栓を閉めた後、全ての部品をチェックしてください。僅かでもガス漏れている部品の使用は危険です。
- トーチバーナーの炎は晴天時など見えにくい事もあるので十分注意してください。トーチバーナーを使用している以外の人は、トーチバーナーに近付かないようにしてください。
- 長時間使用しているとプロパンガスの気化熱によりボンベに霜が付着しガスの噴出圧力が下がりますが、この場合には別のボンベに切り替えてください。決してトーチバーナーで霜の付いたボンベを炙り、溶かしながら作業はしないでください。
- プロパンガスボンベのバルブを持って、ボンベを持ち上げたり移動させてはいけません。
- 防水施工が終了しトーチバーナーの火焰を消した後は、ボンベの元栓をしっかりと閉め、レギュレーターとホース、バーナー間に残っているプロパンガスを使い切るか、又は危険の無いように圧力を下げてください。
- プロパンガスボンベの火災発生時にはボンベには近付けなくなるので消火器はプロパンガスボンベの近くに置かないでください。

防水施工時

- プライマーを塗布中又は未乾燥の場合にはトーチバーナーの使用は避けてください。
- プロパンガスボンベはトーチバーナーの火焰より少なくとも5m以上離れた所に設置して作業してください。
- 空調設備吸入口、開口部（点検口）、ドレン回りなどで作業する場合には炎が中に入り込まない様に注意してください。
- トーチバーナーはその熱によって改質アスファルトルーフィングの表面が溶融したり燃えたりするので、直接ルーフィングの上に置かない様にしてください。
- 密閉した室内等でガスが外気に発散しにくい箇所では作業をする時には、換気を十分に行ってください。

4 救急処置

防水工事現場において作業員が怪我をしたり、急性の中毒に罹ることがあります。救急処置とはこれらの被災者に対して医師の診療が開始されるまで、応急的に行う手当てで、医師の行う診療行為とは正しく区別されなければなりません。常日頃安全対策を十分実施すると共に、適当な救急処置を平素からできる様に訓練しておく事が大切です。

創傷

- 創面を不潔な指、紙、布切れで拭いたり、汚れた水で洗わないでください。
- 消毒して、創面に消毒ガーゼをあて軽く包帯を巻いて医師の処置を受けてください。

捻挫、脱臼

- 捻挫は打撲症と同様に局部を安静にして冷湿布をします。患部を揉んではいけません。
- 脱臼は動かさない様に副木で固定し冷湿布をし、医師の処置を受けてください。

火傷

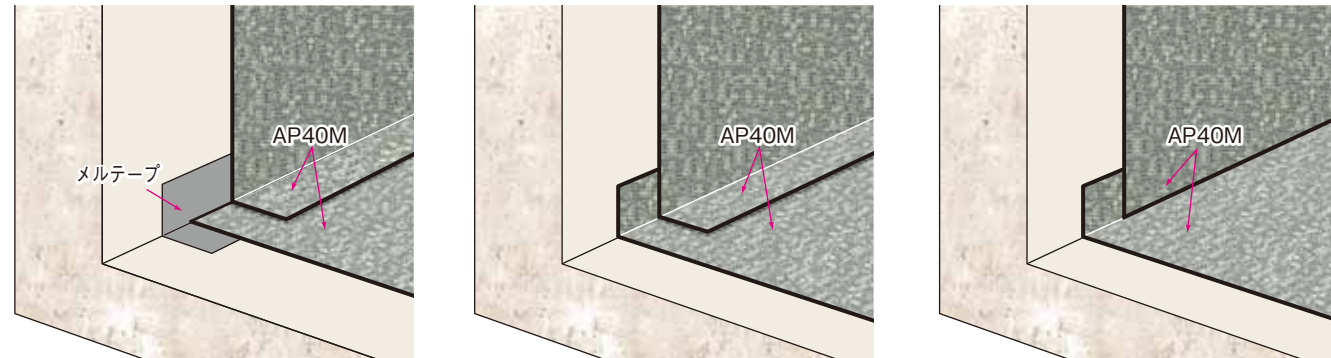
- できるだけ早く水で冷し続けます。
- 水膨れを生ずる場合には軟膏など塗らないで、水膨れを破らない様にして消毒ガーゼをあて軽く包帯を巻いて早く医師の処置を受けてください。

溶剤・ガス中毒、酸欠

- 有毒ガスによる急性中毒に掛かった作業者を救助する場合には無防備で現場に入らないでください。状況を十分確認してから空気呼吸器、ホースマスク等を着用して救助活動を行ってください。
- 風通しの良い所に頭を低くして寝かせ衣服を緩め、できるだけ早く医師の処置を受けてください。必要があれば人工呼吸をします。

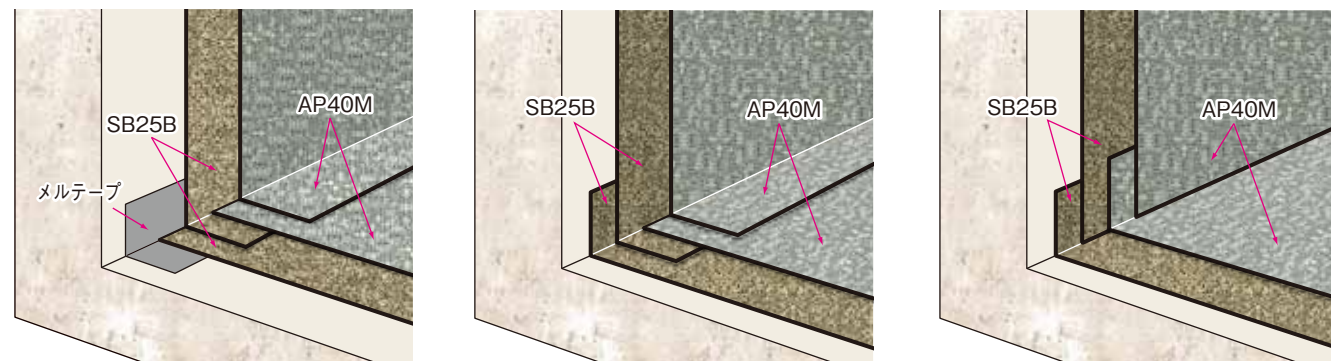
立上り納まり図例

露出防水工法(単層)



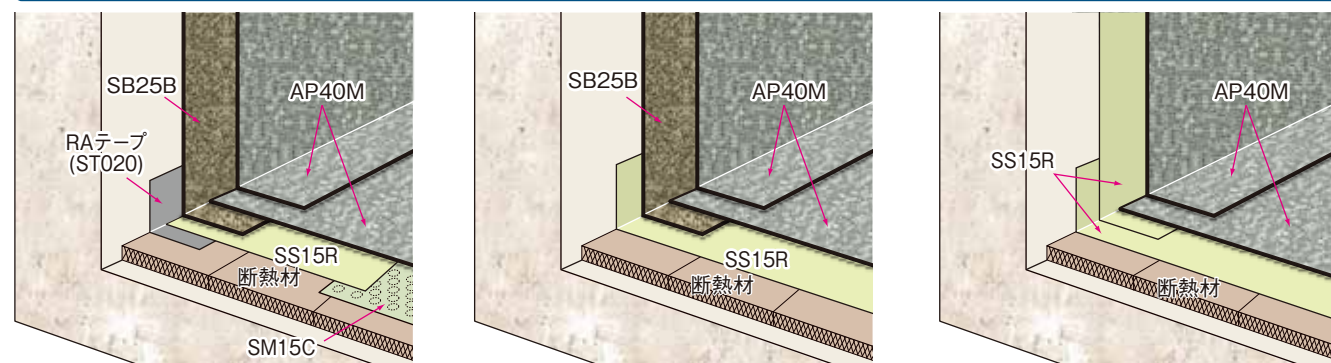
AS-T2仕様

露出防水工法(複層)



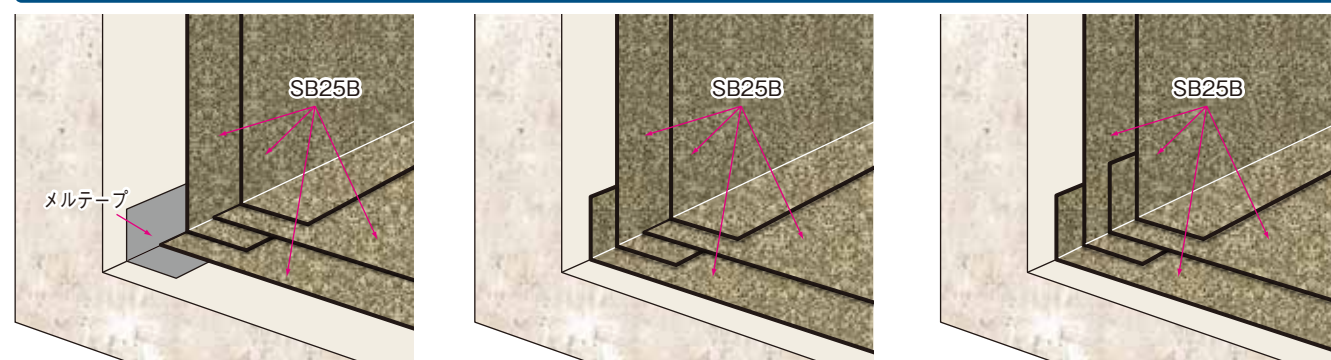
AS-T1・AS-T3・AS-T4仕様

露出断熱防水工法



ASI-T1仕様

保護打設防水工法



注意事項

1. 設計段階での注意事項

下地構造と防水仕様	現場打ちコンクリート(RC、SRC)、デッキプレート型枠コンクリート、PCa構造の場合は露出及び保護打設防水工法が適用でき、ALCパネル構造の場合は露出防水工法が適用できます。
下地の作成	下地の表面は金ゴテで凹凸なく平滑に仕上げます。 PCa、ALCパネルの目地は段違いのないようにモルタルを充填し平滑に仕上げます。
下地の乾燥	下地は充分乾燥させます。 下地はコンクリート打設後1ヶ月以上養生が必要です。 デッキプレート型枠コンクリートの場合、乾燥が悪いので養生期間を長くとります。
下地の勾配	勾配をとって水はけをよくすることが重要です。 露出防水工法で1/50以上、保護打設防水工法で1/50~1/100の勾配をとります。
ルーフドレン	ルーフドレンのつばは、水密性の確保の為、防水層の張掛け幅が100mm以上確保できる形状にしてください。
貫通パイプ	パイプなどの貫通管はツバまたはアンカーをとりつけた後、躯体の中に埋め込み、動かないよう固定します。
ALCパネル・PCa	ALCパネル、PCaは、部材間の挙動をできるだけ小さくし、部材接合部は平坦に仕上げます。
納まり	壁面立上り末端部は水切りを設け、防水層の末端部は金物で固定させます。
工法の選択	一般地仕様は、TA工法、寒冷地及びムーブメントが大きいと予想される場合、TS工法を用います。

2. 防水工事完了後の注意事項

ラス・金網工事	防水層の直ぐ上にラスや金網を置いたり立てかけたりして、防水層を傷つけないようにします。 ラスを直接防水層の上に敷いて踏付けないようにします。
モルタル コンクリート打設工事	一輪車などでモルタルを搬入する場合、ベニヤ板で仮設通路を作ります。 ポンプ圧送する場合、木製台座(木馬)などをコンクリート用ホースの下に置きます。
左官・タイル工事	左官ゴテで傷つけないよう注意します。 水系張りのための釘打ちを防水層の上から行わないようにします。
配管工事・溶接溶断工事	配管を移動してパイプ回りの水仕舞部分を損傷しないようにします。 防水工事後、防水層を貫通させて新しい配管工事を行わないようにします。